

## 年間指導・評価計画

富山県立入善高等学校

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |                                               |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----------------------------------------------|
| 教科・科目    | 国語・現代の国語                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 使用教科書 | 新編 現代の国語 （第一学習社）                              |
| 単位数      | 2                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 使用副教材 | 新編 現代の国語 学習課題集（第一学習社）<br>書きたくなるアシスト常用漢字（数研出版） |
| 対象学年・学科  | 1 年 農業科・5 組                                                                                                                                                                                                                                                                                |       |                                               |
| 科目の概要と目標 | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。<br>1. 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。<br>2. 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。<br>3. 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |       |                                               |

| 実施時期  | 単元               | 学習内容                                                       | 到達度目標                                                                                                                       | 知識 | 思判表 | 主体 |
|-------|------------------|------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|----|
| 4月    | 「未知」はいくらでもある     | 実体験を踏まえて提示された「未知」に対する筆者の捉え方を理解し、自分に照らして考えを深める。             | ・筆者の「未知」への考え方を、構造や表現から理解を深めることができる。<br>・世界の捉え方について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述している。                                                 |    | ○   | ○  |
| 5月    | ナマケモノになる         | 筆者がナマケモノから学んだことを理解し、「ナマケモノになる」ことの意味について考えを深める。             | ・ナマケモノの生態から考える競争社会での生き方について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述している。<br>・比喩について積極的に理解を深め、本文中の比喩の効果を説明しようとしている。                              | ○  | ○   |    |
| 中間考査  |                  |                                                            |                                                                                                                             | ○  | ○   | ○  |
|       | 言語としてのピクトグラム     | ピクトグラムが持つ「言語」としての機能を理解し、言語表現の多様性について考えを深める。                | ・日本のピクトグラム掲示の特徴について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述している。<br>・筆者の主張するピクトグラムが有する可能性を理解できている。                                              | ○  | ○   |    |
| 6月    | 言葉の海のオノマトペ       | 音声と意味との関係から、言語一般およびオノマトペの機能的特徴を理解し、音としての言葉への興味を広げる。        | ・言語には認識や思考を支える働きがあることができる。<br>・オノマトペの「恣意的なところ」について理解を深めることができる。                                                             |    | ○   | ○  |
| 期末考査  |                  |                                                            |                                                                                                                             | ○  | ○   | ○  |
| 7月    | 法律改正に関わる文章を読み比べる | 改正前後の法律文を読み比べて必要な情報を読み取り、複数の文章を関連付けながら理解したことをまとめる。         | ・複数の文章から読み取った情報を粘り強く吟味し、表現の仕方を工夫してまとめることができる。<br>・自分の考えや事柄が的確に伝わるように、表現のしかたを工夫する方法を学ぼうとしている。                                |    | ○   | ○  |
| 9月    | 十六歳のとき           | 人生の岐路となった筆者の旅を追体験することにより、世界にはさまざまな出会いがあることを理解する。           | ・人生の岐路について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述しようとしている。<br>・本文を粘り強く読み、個別の事柄と筆者の主張との関係を理解しようとしている。                                           |    | ○   | ○  |
| 10月   | 臆病な詩人、街へ出る       | 他者との関わりを通して自身の人生や生き方を省みる筆者の姿に触れ、自分自身を見つめ直す契機とする。           | ・比喩について積極的に理解を深め、本文中の比喩の効果を説明しようとしている。<br>・本文を粘り強く読み、個別の事柄に対する「チョーさん」の論理との関係を理解しようとしている。                                    | ○  |     | ○  |
| 中間考査  |                  |                                                            |                                                                                                                             | ○  | ○   | ○  |
|       | 「弱いロボット」の誕生      | 「弱いロボット」の開発意図を理解し、人との間に生まれた関係性について考えを深める。                  | ・言い換えとなる箇所を把握したり、文章の表現に着目したりしながら、正確に文章を解釈することができる。<br>・動画と本文を比較して、わかったことを積極的に説明しようとしている。                                    |    | ○   | ○  |
| 11月   | 人はなぜ仕事をするのか      | 本文で使われている「パス」という言葉の意味を考え、筆者が述べる仕事の本质について考察する。              | ・貨幣に価値が生じる背景について、社会における流通という事実と関連させて理解を深めることができる。<br>・お金を稼ごうという気持ちの背景に「モノをくくる動かしたい」という欲望があることについて理解を深めることができる。              |    | ○   | ○  |
| 期末考査  |                  |                                                            |                                                                                                                             | ○  | ○   | ○  |
| 12月   | 話し方の工夫           | 相手・目的・場面に応じた言葉遣いを理解し、より伝わりやすい表現方法を理解する。                    | ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色の違いを理解し、使うことができる。<br>・積極的に伝わりやすい表現を考え、学習課題に沿って説明や発表をしようとしている。                                         | ○  | ○   |    |
| 1月    | イースター島になぜ森がないのか  | イースター島の歴史について理解し、筆者が提示する人類と生態系のあり方について考察し、持続可能性について考えを深める。 | ・外来生物が生態系に与える影響を認識することができる。<br>・個別の事例を一般化する文章の効果的な組み立て方を理解し、学習課題に即して解釈を深めようとしている。<br>・「持続可能性」という倫理を支える文化」とは何かを理解を深めることができる。 |    | ○   | ○  |
| 2月    | 「材料科学」のゆくえ       | 材料科学の革新が人類の進歩に大きく貢献したことを理解し、本文に示された未来像について関心を深める。          | ・時代と深く関わってきた材料の理解を深めることができる。<br>・材料の無限の可能性について理解できている。<br>・材料科学について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述しようとしている。                            | ○  | ○   |    |
| 学年末考査 |                  |                                                            |                                                                                                                             | ○  | ○   | ○  |
| 3月    | 待遇表現             | 敬語表現が選択される視点を理解し、相手や場に応じた表現が選択できるようになる。                    | ・敬語表現の効果や敬語表現を選択する視点を理解できている。<br>・相手や場に応じた表現が選択できている。                                                                       | ○  | ○   |    |

年間指導・評価計画

富山県立入善高等学校

|                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |       |                     |
|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------------------|
| 教科・科目                      | 国語・言語文化                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 使用教科書 | 高等学校 新編言語文化（第一学習社）  |
| 単位数                        | 2単位                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 使用副教材 | 新編言語文化 学習課題集（第一学習社） |
| 対象生徒<br>（学年・学科・<br>コース／類型） | 1年 農業科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |       |                     |
| 科目の概要と目標                   | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。<br>1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。<br>2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。<br>3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |       |                     |

| 実施時期 |    | 単元                 | 学習内容                                                                                                  | 到達度目標                                                           | 知識 | 思判表 | 主体 |
|------|----|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|----|-----|----|
|      | 4月 | よろこびの歌             | 文章の種類をふまえて、内容や展開を的確に捉える方法を学ぶ。<br>作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。                                   | 「私」と周囲との意識のずれが何から生じているのかを捉えながら、「私」の心情の動きを読み取ることができる。            | ○  | ◎   | ○  |
|      |    | 古文の学習              | 文章の種類をふまえて、内容や展開を的確に捉える方法を学ぶ。<br>作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。<br>文字の変化について理解する。                 | 我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知ることができる。                 |    | ○   | ○  |
|      |    | 児のそら寝              | 文章の種類をふまえて、内容や展開を的確に捉える方法を学ぶ。<br>作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。<br>課題に応じて調査する方法を学ぶ。               | 現代に通じる人間のありようを味わいながら、古文の世界への親しみを深めることができる。                      | ○  | ◎   | ◎  |
|      | 5月 | なよ竹のかぐや姫           | 歴史的仮名遣いや古文を音読する際の留意点について理解する。<br>「なよ竹のかぐや姫」の内容や構成を的確にとらえる。<br>登場人物のものの見方・感じ方・考え方を捉え、内容の解釈を深める。        | 現代まで受け継がれる物語の読み取りを通して、古文の世界への親しみを深めることができる。                     | ○  | ◎   | ○  |
| 中間考査 |    |                    |                                                                                                       |                                                                 |    |     |    |
|      |    | I was born         | 文学のジャンルや構造について理解する。<br>文学作品の基本構造を理解する。<br>自己の経験や発展的な知識を活用して、生まれることの意義について考察する。                        | 散文詩に親しみ、「I was born」という言葉がどのようなイメージでとらえられているかを読み取ることができる。       |    | ◎   | ○  |
|      | 6月 | 羅生門                | 文章の種類をふまえて、内容や展開を的確に捉える方法を学ぶ。<br>作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。<br>作品の成立した背景をふまえて、内容の解釈を深める方法を学ぶ。 | 下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。                  | ○  | ◎   | ◎  |
|      |    | 伊勢物語               | 文章の種類をふまえて、内容や展開を的確に捉える方法を学ぶ。<br>作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。<br>課題に応じて調査する方法を学ぶ。               | 話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解することができる。                    | ○  | ◎   | ◎  |
| 期末考査 |    |                    |                                                                                                       |                                                                 |    |     |    |
|      | 7月 | 漢文の学習              | 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。<br>我が国の言語文化と外国の文化との関係について理解する。<br>訓読のきまりを理解する。                                     | わが国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を知ることができる。               | ○  | ○   | ○  |
|      |    | 訓読に親しむ<br>漢文を読むために | 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。<br>我が国の言語文化と外国の文化との関係について理解する。<br>訓読のきまりを理解する。                                     | 漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方、助字のはたらきと意味、再読文字の種類と読み方を習得することができる。 | ◎  |     | ◎  |
|      | 9月 | 矛盾<br>狐借虎威         | 文章の種類をふまえて、内容や展開を的確に捉える方法を学ぶ。<br>作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。<br>作品の歴史的・文化的背景を理解する。             | 漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知ることができる。                    | ◎  | ◎   | ○  |

|       |     |                      |                                                                                                                                            |                                                            |   |   |   |
|-------|-----|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|---|---|---|
|       |     | 大切な言葉                |                                                                                                                                            | わが国の伝統文化の一つである短歌の鑑賞のしかたを理解し、近現代を代表する歌人の作品を味わうことができる。       | ○ | ◎ | ○ |
|       |     | 手毬唄                  | 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。<br>折句を用いて、感じたことを短歌で表す方法を学ぶ。<br>我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解する。                                         | わが国の伝統文化の一つである俳句の鑑賞のしかたを理解し、近現代を代表する俳人の作品を味わうことができる。       | ○ | ◎ | ○ |
|       |     | 折句を用いて短歌を作る          |                                                                                                                                            | 折句を用いて、感じたことを短歌で表す方法を学ぶことができる。                             | ○ | ◎ | ○ |
|       | 10月 | 徒然草                  | 文章の種類をふまえて、内容や展開を的確に捉える方法を学ぶ。<br>作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。<br>作品の歴史的・文化的背景を理解する。                                                  | 作者の関心ごとを自由につづった文章を読んで、古文に表れたものの見方・考え方の一端に触れることができる。        | ○ | ◎ | ◎ |
|       |     | 枕草子                  |                                                                                                                                            | 当時の人々の生活感覚を反映した文章を読んで、古文に表れたものの見方・考え方の一端に触れることができる。        | ○ | ◎ | ○ |
| 中間考査  |     |                      |                                                                                                                                            |                                                            |   |   |   |
|       |     | よだかの星                | 文章の種類をふまえて、内容や展開を的確に捉える方法を学ぶ。<br>作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。                                                                        | 作品に含まれる寓意を理解し、主人公の置かれた状況から生じる心理や行動をもとに人間の生き方を考えることができる。    | ○ | ◎ | ◎ |
|       | 11月 | 万葉・古今・新古今            | 文章の種類をふまえて、内容や展開を的確に捉える方法を学ぶ。<br>作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。<br>我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解する。                                    | 調べや修辞技法に留意しながら、和歌の鑑賞のしかたを理解することができる。                       | ○ | ◎ | ◎ |
|       |     | 古典の和歌を現代の言葉で書き換える    |                                                                                                                                            | 和歌を書き換えて、互いの解釈を比べ合う方法を学ぶことができる。                            | ○ | ◎ | ○ |
| 期末考査  |     |                      |                                                                                                                                            |                                                            |   |   |   |
|       | 12月 | 唐詩の世界<br>漢詩のきまり      | 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。<br>漢詩のきまりを理解する。                                                                                         | 表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々がどのような思いを詩に表したかを読み取ることができる。 | ○ | ◎ | ◎ |
|       | 1月  | 祭りの笛                 | 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。<br>作品の内容をふまえ、わが国の伝統行事についてものの見方を深める。<br>内容を効果的に伝えるための筆者の工夫を理解し、言葉のはたらきについて考えを深める。                        | わが国の伝統行事について書かれた文章を読んで、内容を効果的に伝えるための筆者の工夫を理解することができる。      |   | ◎ | ○ |
|       |     | 「祭り」をテーマに随筆を書く       |                                                                                                                                            | 我が国の伝統文化に関する題材を選んで、随筆に書き表す方法を学ぶことができる。                     |   | ◎ | ○ |
|       | 2月  | 奥の細道<br>『奥の細道』と和漢の文学 | 文章の種類をふまえて、内容や展開を的確に捉える方法を学ぶ。<br>作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。<br>我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解する。<br>我が国の言語文化の特質や、外国の文化との関係について理解する。 | 俳諧紀行文における散文と句の関係を理解し、作品に表れた作者の思想や心情を捉えることができる。             | ○ | ◎ | ◎ |
| 学年末考査 |     |                      |                                                                                                                                            |                                                            |   |   |   |
|       | 3月  | 両頭蛇                  | 文章の種類をふまえて、内容や展開を的確に捉える方法を学ぶ。<br>作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。<br>訓読のきまりを理解する。                                                        | 漢文の散文作品に触れて読みに慣れるとともに、文章中に示された教えを読み取ることができる。               | ○ | ◎ | ◎ |
|       |     | 梟逢鳩                  | 文章の種類をふまえて、内容や展開を的確に捉える方法を学ぶ。<br>作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。<br>訓読のきまりを理解する。                                                        | 漢文の作品に触れて読みに慣れるとともに、鳥の話に託された寓意を読み取ることができる。                 | ○ | ◎ | ◎ |

|          |                                                                                                                                   |       |                              |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------------------------------|
| 教科・科目    | 地理歴史・地理総合                                                                                                                         | 使用教科書 | 高等学校新地理総合（帝国書院）、新詳高等地図（帝国書院） |
| 単位数      | 2                                                                                                                                 | 使用副教材 | 高等学校新地理総合ノート（帝国書院）           |
| 対象学年・学科  | 1 年 農業科                                                                                                                           |       |                              |
| 科目の概要と目標 | 1. 積極的に学習活動を行い、世界や地域のことを理解しようすることができる。<br>2. 広い視野で国際社会を見つめるために系統地理の知識を理解することができる。<br>3. 世界の特徴的な国や地域について、地理的な知識や視点を探究活動に生かすことができる。 |       |                              |

| 実施時期  |    | 単元                                                                    | 学習内容                                                                                                                                                                         | 到達度目標①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 知識 | 思判表 | 主体 |
|-------|----|-----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|----|
| 1学期   | 4  | 第1部 地図でとらえる現代世界<br>第1章 地図と地理情報システム<br>1節 地球上の位置と時差<br>1 地球上の位置と私たちの生活 | 緯度の違いは、私たちの生活にどのような影響を与えているのだろうか。                                                                                                                                            | ①緯度・経度の基本的なしくみ、緯度の違いが生活に与える影響について理解している。<br>②緯度・経度の基本的なしくみ、緯度の違いが生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。                                                                                                                                                                                                                                                      | ○  |     | ○  |
| 1学期   | 5  | 2 時差と私たちの生活                                                           | 時刻の違い(時差)は、私たちの生活にどのような影響を与えているのだろうか。                                                                                                                                        | ①時差のしくみ、時差が生活に与える影響について理解している。<br>②時差のしくみ、時差が生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。<br>③時差のしくみ、時差が生活に与える影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。                                                                                                                                                                                                     | ○  | ○   |    |
| 中間考査  |    |                                                                       |                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |    |     |    |
| 1学期   | 5  | 2節 地図の役割と種類<br>1 地球儀と地図                                               | なぜ地図にはさまざまな図法があるのだろうか。                                                                                                                                                       | ①球体の地球と平面の地図、さまざまな地図投影法(図法)について理解している。<br>②球体の地球と平面の地図、さまざまな地図投影法(図法)について、多面的・多角的に考察し、表現している。<br>③球体の地球と平面の地図、さまざまな地図投影法(図法)について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。                                                                                                                                                                             | ○  |     |    |
| 1学期   | 6  | 2 身の回りの地図                                                             | 主題図と一般図には、それぞれどのような表現方法や用途があるのだろうか。                                                                                                                                          | ①身の回りの主題図やさまざまな一般図の表現方法や用途について理解している。<br>②身の回りの主題図やさまざまな一般図の表現方法や用途について、多面的・多角的に考察し、表現している。<br>③身の回りの主題図やさまざまな一般図の表現方法や用途について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。                                                                                                                                                                                | ○  | ○   |    |
|       |    | 3 統計地図の種類と利用                                                          | 統計地図にはどのような種類があり、どのように使い分けられているのだろうか。                                                                                                                                        | ①統計地図の種類、統計地図の比較と使い分けについて理解しており、基礎的・基本的な技能を身に付けている。<br>③統計地図の種類、統計地図の比較と使い分けについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。                                                                                                                                                                                                                             | ○  |     |    |
| 1学期   | 7  | 4 地理情報システム(GIS)の活用                                                    | 地理情報システム(GIS)は、どのように活用されているのだろうか。                                                                                                                                            | ①地理情報システム(GIS)のしくみやこれを支える技術、GISの活用場面について理解しており、基礎的・基本的な技能を身に付けている。<br>②地理情報システム(GIS)のしくみやこれを支える技術、GISの活用場面について、多面的・多角的に考察し、表現している。<br>③地理情報システム(GIS)のしくみやこれを支える技術、GISの活用場面について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。                                                                                                                               | ○  |     | ○  |
| 期末考査  |    |                                                                       |                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |    |     |    |
| 2学期   | 9  | 第2章 結び付きを深める現代世界<br>1節 現代世界の国家と領域<br>1 現代世界の国家<br>2 日本の位置や領域          | 国家の領域や国境にはどのような決まりがあるのだろうか。<br>日本の位置や領域、排他的経済水域にはどのような特徴があるのだろうか。                                                                                                            | ①国境の種類、国家の領域、国家の主権について理解している。日本の位置と領域、排他的経済水域の特徴、日本の領土をめぐる問題について理解している。<br>②国境の種類、国家の領域、国家の主権について、多面的・多角的に考察し、表現している。日本の位置と領域、排他的経済水域の特徴、日本の領土をめぐる問題について、多面的・多角的に考察し、表現している。<br>③国境の種類、国家の領域、国家の主権について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。                                                                                                       | ○  |     |    |
| 2学期   | 10 | 2節 グローバル化する世界<br>1 国家間の結び付き<br>2 貿易によって結び付く世界<br>3 さまざまな交通網の発達        | グローバル化に伴い、貿易や交通、通信、観光など、世界の国々を結び付ける要素には変化がみられる。世界の国々は、これらの要素によってどのように結び付いているのだろうか。                                                                                           | ①国際関係と紛争の変化、国連が果たす役割、経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて理解している。<br>②国際関係と紛争の変化、国連が果たす役割、経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて、多面的・多角的に考察し、表現している。<br>③暮らしを支える貿易、貿易の変化と国際分業の成立、自由化する世界の貿易について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。                                                                                                                                   | ○  |     | ○  |
| 中間考査  |    |                                                                       |                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |    |     |    |
| 2学期   | 10 | 第2部 国際理解と国際協力<br>第1章 生活文化の多様性と国際理解<br>1節 世界の地形と人々の生活                  | 地球上には、高く険しい山脈や広大な平原、深い谷などの多様な地形がある。人々はこうした地形とどのように関わり合っているのだろうか。そして、世界各地ではどのような生活が営まれているのだろうか。                                                                               | ①生活の舞台となる陸地、地形をつくる営力、大地形を構成する変動帯と安定地域について理解している。<br>②生活の舞台となる陸地、地形をつくる営力、大地形を構成する変動帯と安定地域について、多面的・多角的に考察し、表現している。<br>③生活の舞台となる陸地、地形をつくる営力、大地形を構成する変動帯と安定地域について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。                                                                                                                                               | ○  |     | ○  |
| 2学期   | 11 | 2節 世界の気候と人々の生活                                                        | 気温や降水、風などの気候要素は場所によって異なる。人々の生活はそれぞれの気候要素とどのように関わり合っているのだろうか。そして、世界各地ではどのような生活が営まれているのだろうか。                                                                                   | ①気候が生活に与える影響、気温のしくみと分布の特徴、降水のしくみと分布の特徴について理解している。<br>②気候が生活に与える影響、気温のしくみと分布の特徴、降水のしくみと分布の特徴について、多面的・多角的に考察し、表現している。<br>③気候が生活に与える影響、気温のしくみと分布の特徴、降水のしくみと分布の特徴について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。                                                                                                                                            | ○  | ○   |    |
| 2学期   | 12 | 追究事例 自然1<br>乾燥した大陸と太平洋の島々での生活ーオセアニアー                                  | 乾燥した大陸と多くの島々からなるオセアニアは、地形や気候が多様である。このような自然環境を生かして、どのような生活文化や産業が育まれてきたのだろうか。                                                                                                  | ①多くの観光客を魅了する自然環境、安定地域が広がる大陸と起伏に富んだ島々、地域によって大きく異なる気候について理解している。<br>②多くの観光客を魅了する自然環境、安定地域が広がる大陸と起伏に富んだ島々、地域によって大きく異なる気候について、多面的・多角的に考察し、表現している。<br>③多くの観光客を魅了する自然環境、安定地域が広がる大陸と起伏に富んだ島々、地域によって大きく異なる気候について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。                                                                                                     | ○  |     |    |
| 期末考査  |    |                                                                       |                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |    |     |    |
| 3学期   | 1  | 3節 世界の言語・宗教と人々の生活                                                     | 世界には、日本とは異なる言語を話す民族が存在し、さまざまな宗教が信仰されている。言語や宗教は、人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。                                                                                                     | ①言語と民族の関わり、公用語と人々の生活への影響について理解している。<br>②言語と民族の関わり、公用語と人々の生活への影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。<br>③言語と民族の関わり、公用語と人々の生活への影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。                                                                                                                                                                                      | ○  |     | ○  |
| 3学期   | 2  | 4節 歴史的背景と人々の生活                                                        | 世界各地の多様な環境の下で育まれてきた生活文化は、さまざまな出来事を積み重ねることによって変化を遂げてきた。このような歴史的な背景は、人々の生活文化にどのような影響を与えてきたのだろうか。                                                                               | ①生活文化に影響した歴史的背景、冷戦時代の体制が生活に与える影響について理解している。<br>②生活文化に影響した歴史的背景、冷戦時代の体制が生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。<br>③生活文化に影響した歴史的背景、冷戦時代の体制が生活に与える影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。                                                                                                                                                              | ○  |     |    |
| 学年末考査 |    |                                                                       |                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |    |     |    |
| 3学期   | 3  | 第3部 持続可能な地域づくりと私たち<br>第1章 自然環境と防災<br>1節 日本の自然環境<br>2節 地震・津波と防災        | 世界や日本の各地で発生する自然災害は、その地域の地形や気候といった自然環境と密接に結び付いている。日本の地形や気候には、どのような特徴があるのだろうか。変動帯に位置する日本は、数多くの地震によってさまざまな被害を受けてきた。地震や津波は、どのような被害をもたらすのだろうか。また、地震や津波の発生に備えて、どのような取り組みが必要なのだろうか。 | ①明瞭な季節変化、降水量の季節変化と地域差、日本の都市気候について理解している。<br>②明瞭な季節変化、降水量の季節変化と地域差、日本の都市気候について、多面的・多角的に考察し、表現している。<br>③明瞭な季節変化、降水量の季節変化と地域差、日本の都市気候について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。①地震の種類と特徴、地域で異なる震災の被害について理解しており、地理的技能を身に付けている。<br>②地震の種類と特徴、地域で異なる震災の被害について、多面的・多角的に考察し、表現している。<br>③地震の種類と特徴、地域で異なる震災の被害について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 | ○  |     |    |

|          |                                                                                                                                                                                                                                                          |       |                     |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------------------|
| 教科・科目    | 地理歴史・歴史総合                                                                                                                                                                                                                                                | 使用教科書 | 東京書籍「新選歴史総合」(歴総701) |
| 単位数      | 2                                                                                                                                                                                                                                                        | 使用副教材 | 「新選歴史総合 ワークノート」     |
| 対象学年・学科  | 3年 農業科                                                                                                                                                                                                                                                   |       |                     |
| 科目の概要と目標 | 歴史総合は、近現代の歴史変動を世界と日本の相互関係から捉え、資料を用いて歴史学習法を習得する。現代の課題の形成に関わる歴史を考察し、構想する学習を通じ、広い視野と国際社会で主体的に生きる公民としての資質育成、グローバル化する社会で平和で民主的な国家・社会の形成者を育てることを目指す科目である。<br>知識・技能：世界と日本の近現代史を相互的な視点から捉え、資料に基づいた情報収集・分析能力を養う。<br>思考力・判断力・表現力：歴史的事象の多角的考察、課題解決の構想、説明・議論能力を育成する。 |       |                     |

※下表にない単元は長期休暇中の課題等として実施予定。

| 実施時期     | 単元                        | 学習内容                                           | 到達目標                                      | 知識 | 思考力 | 主体性 |
|----------|---------------------------|------------------------------------------------|-------------------------------------------|----|-----|-----|
| ～1学期中間考査 | 第2章2節 結び付く世界と日本の開国        | 18世紀の東アジア諸国間の関係性を、資料を基に読み解き、相互理解を深める。          | 資料を多角的に解釈し、18世紀東アジアの国際関係を説明できる。           | ○  | ○   | ○   |
|          | 2-2-① 18世紀の東アジア           | 18世紀の東アジア各地域の経済的な繋がりを、資料分析を通して明らかにする。          | アジアの経済ネットワークを分析し、地域間の相互依存関係を論述できる。        | ○  | ○   | ○   |
|          | 2-2-② 結び付くアジア諸地域          | 18世紀のヨーロッパとアジアの貿易の変化を、資料から読み取り、その特徴を考察する。      | ヨーロッパとアジアの貿易構造の変化を、歴史的背景を含めて説明できる。        | ○  | ○   | ○   |
|          | 2-2-③ 18世紀のヨーロッパとアジア      | 産業革命が社会にもたらした変革を、過程と資本主義の確立に着目して理解する。          | 産業革命の社会的影響を分析し、資本主義成立との関連性を論述できる。         | ○  | ○   | ○   |
|          | 2-2-④ 産業革命のはじまり           | 産業革命後の世界経済の変容を、イギリスの役割を中心に理解する。                | イギリスの世界経済における影響力を評価し、世界市場形成の過程を説明できる。     | ○  | ○   | ○   |
|          | 2-2-⑤ 世界市場の形成             | 19世紀東アジアと欧米諸国の関係性を、不平等条約締結の影響を含めて理解する。         | 東アジアの国際関係の変化を、日本の開国と関連付けて説明できる。           | ○  | ○   | ○   |
|          | 2-2-⑥ 東アジア国際関係の変化と日本の開国   | 産業革命の世界的な広がりが各国にもたらした変化を、日本の事例を含めて理解する。        | 各国の産業革命の展開を比較し、その世界的影響を論述できる。             | ○  | ○   | ○   |
|          | 2-2-⑦ 世界経済の変化と日本の産業革命     | 市民革命が社会システムに与えた影響を、アメリカ独立革命とフランス革命を例に理解する。     | 市民革命が近代社会の形成に果たした役割を、具体例を挙げて説明できる。        | ○  | ○   | ○   |
|          | 第2章3節 国民国家と明治維新           | 19世紀欧米における国家形成の模索を、自由主義とナショナリズムの観点から理解する。      | 19世紀欧米の国家形成における思想的背景を分析し、その多様性を説明できる。     | ○  | ○   | ○   |
|          | 2-3-① 市民革命と近代社会           | 19世紀アジアの政治変動を、各地域の背景と変化に着目して理解する。              | アジア各地域の政治変動を比較し、その共通点と相違点を論述できる。          | ○  | ○   | ○   |
| ～1学期末考査  | 2-3-② 自由主義とナショナリズム        | 明治維新が起きた国際環境と、日本社会への影響を理解する。                   | 明治維新の国際的背景を分析し、東アジアの国際関係における位置付けを説明できる。   | ○  | ○   | ○   |
|          | 2-3-③ アジアの諸国家とその変容        | 19世紀後半の立憲制国家の多様な特徴を、比較を通して理解する。                | 各国の立憲制を比較し、その特徴と相互関係を論述できる。               | ○  | ○   | ○   |
|          | 2-3-④ 明治維新と東アジアの国際関係      | 帝国主義の概念と植民地獲得競争の展開を、19世紀末以降の世界情勢を基に理解する。       | 帝国主義の世界的影響を分析し、植民地支配の実態を説明できる。            | ○  | ○   | ○   |
|          | 2-3-⑤ 立憲制の広まり             | 日清戦争が東アジアの国際秩序に与えた影響を、華夷秩序の解体と関連付けて理解する。       | 日清戦争の歴史的意義を評価し、東アジアの国際関係における転換点を説明できる。    | ○  | ○   | ○   |
|          | 2-3-⑥ 帝国主義と植民地            | 帝国主義国家間の関係性を、日露戦争への繋がりを含めて理解する。                | 帝国主義国家間の対立と協調を分析し、日露戦争の背景を説明できる。          | ○  | ○   | ○   |
|          | 2-3-⑦ 日清戦争と華夷秩序の解体        | 植民地支配の実態と、それが現地の近代化に与えた影響を理解する。                | 植民地支配の多面的な影響を評価し、現地の近代化との関連性を論述できる。       | ○  | ○   | ○   |
|          | 2-3-⑧ 日清戦争と華夷秩序の解体        | 20世紀初頭における帝国主義への多様な反応を、世界各地の事例を通して理解する。        | 帝国主義に対する抵抗運動を分析し、その世界的広がりを説明できる。          | ○  | ○   | ○   |
|          | 2-3-⑨ 植民地支配と植民地の近代        | 第一次世界大戦の展開と総力戦体制の出現を、背景と意義を含めて理解する。            | 第一次世界大戦の性格を分析し、総力戦体制の歴史的意義を説明できる。         | ○  | ○   | ○   |
|          | 2-3-⑩ 日清戦争と華夷秩序の解体        | 第一次世界大戦後の国際協調体制を、ヴェルサイユ体制とワシントン体制を中心に理解する。     | 戦後国際秩序の形成過程を分析し、国際協調体制の目標と限界を説明できる。       | ○  | ○   | ○   |
|          | 2-3-⑪ 日清戦争と華夷秩序の解体        | ソビエト連邦成立と社会主義運動の世界的拡大を、ロシア革命を背景に理解する。          | ロシア革命の世界的影響を評価し、社会主義運動の展開を説明できる。          | ○  | ○   | ○   |
| ～2学期中間考査 | 3-2-① ソビエト連邦の成立と社会主義      | アメリカ合衆国の国際的地位向上と大衆文化の広がりを、その背景を含めて理解する。        | アメリカ合衆国の世界的影響力を分析し、大衆消費社会の出現を説明できる。       | ○  | ○   | ○   |
|          | 3-2-② アメリカ合衆国の台頭と大衆消費社会   | 第一次世界大戦後のアジア経済の発展と人々の移動を、地域間の結びつきに着目して理解する。    | アジア経済の発展要因を分析し、人々の移動が地域社会に与えた影響を説明できる。    | ○  | ○   | ○   |
|          | 3-2-③ アジアの経済成長と移動する人々     | 第一次世界大戦後のアジアにおける民族運動の高揚と国際秩序の変容を、日中関係を含めて理解する。 | アジア民族運動の多様性を分析し、国際秩序変動との関連性を説明できる。        | ○  | ○   | ○   |
|          | 3-2-④ 反植民地主義の高揚と国際秩序の変容   | 第一次世界大戦後の民主主義の世界的発展と、日本における大正デモクラシーを理解する。      | 民主主義の世界的拡大を分析し、日本における大正デモクラシーの意義を説明できる。   | ○  | ○   | ○   |
|          | 3-2-⑤ 民主主義の拡大と社会変革の動き     | マスメディアの発達と人々の日常生活に与えた影響を、大衆と国家の関係性を含めて理解する。    | マスメディアの社会的役割を分析し、大衆文化の形成を説明できる。           | ○  | ○   | ○   |
|          | 3-2-⑥ マスメディアの発達と日常生活      | 世界恐慌の発生原因と各国の対応を、その影響を含めて理解する。                 | 世界恐慌の世界的影響を評価し、各国の政策対応を比較できる。             | ○  | ○   | ○   |
|          | 3-3-① 世界恐慌                | 国際協調体制崩壊下のアジア・アフリカ諸国の動向を、自立の動きと大衆運動に着目して理解する。  | アジア・アフリカ諸国の民族運動を分析し、国際協調体制の動向との関連性を説明できる。 | ○  | ○   | ○   |
|          | 3-3-② アジア・アフリカと大衆社会       | 国際協調体制の崩壊過程を、ファシズムの伸長を背景に理解する。                 | ファシズムの世界的影響を評価し、国際協調体制崩壊の要因を説明できる。        | ○  | ○   | ○   |
|          | 3-3-③ 国際協調体制の崩壊           | 日中戦争とファシズムの膨張がもたらした世界的危機を、両者の関連性を含めて理解する。      | 日中戦争とヨーロッパの危機を関連付け、第二次世界大戦への繋がりを説明できる。    | ○  | ○   | ○   |
|          | 3-3-④ 日中戦争と深刻化する世界の危機     | 第二次世界大戦の勃発と拡大、日中戦争との関連性を理解する。                  | 第二次世界大戦の世界的影響を評価し、アジア太平洋戦争との繋がりを説明できる。    | ○  | ○   | ○   |
| ～2学期末考査  | 3-3-⑤ 第二次世界大戦の勃発          | 第二次世界大戦の終結と戦後国際秩序の形成を、連合国の動きを中心に理解する。          | 連合国の戦後構想を分析し、新たな国際秩序形成への影響を説明できる。         | ○  | ○   | ○   |
|          | 3-3-⑥ 第二次世界大戦における連合国と戦後構想 | アジア太平洋戦争の展開と日本の敗戦過程を、人々の生活を含めて理解する。            | アジア太平洋戦争の多面的な影響を評価し、日本の敗戦に至る過程を説明できる。     | ○  | ○   | ○   |
|          | 3-3-⑦ アジア太平洋戦争と日本の敗戦      | 連合国の占領政策と冷戦開始を、日本の主権回復と国際情勢を背景に理解する。           | 冷戦が日本の占領政策に与えた影響を分析し、主権回復の国際的背景を説明できる。    | ○  | ○   | ○   |
|          | 3-3-⑧ 連合国の占領政策と冷戦         | 冷戦下の自由主義、社会主義、開発途上国の経済政策を比較し、相互関係を理解する。        | 冷戦下の経済政策の多様性を分析し、開発途上国の経済発展における課題を説明できる。  | ○  | ○   | ○   |
|          | 3-3-⑨ 冷戦下の日本とアジア          | 冷戦下の自由主義、社会主義、開発途上国の経済政策を比較し、相互関係を理解する。        | 冷戦下の経済政策の多様性を分析し、開発途上国の経済発展における課題を説明できる。  | ○  | ○   | ○   |
|          | 3-3-⑩ 冷戦下の日本とアジア          | 冷戦下の自由主義、社会主義、開発途上国の経済政策を比較し、相互関係を理解する。        | 冷戦下の経済政策の多様性を分析し、開発途上国の経済発展における課題を説明できる。  | ○  | ○   | ○   |
|          | 4-2-① 冷戦下の自由主義と社会主義       | 冷戦下の自由主義、社会主義、開発途上国の経済政策を比較し、相互関係を理解する。        | 冷戦下の経済政策の多様性を分析し、開発途上国の経済発展における課題を説明できる。  | ○  | ○   | ○   |
|          | 4-2-② 冷戦下の自由主義と社会主義       | 冷戦下の自由主義、社会主義、開発途上国の経済政策を比較し、相互関係を理解する。        | 冷戦下の経済政策の多様性を分析し、開発途上国の経済発展における課題を説明できる。  | ○  | ○   | ○   |
|          | 4-2-③ 冷戦下の自由主義と社会主義       | 冷戦下の自由主義、社会主義、開発途上国の経済政策を比較し、相互関係を理解する。        | 冷戦下の経済政策の多様性を分析し、開発途上国の経済発展における課題を説明できる。  | ○  | ○   | ○   |
|          | 4-2-④ 冷戦下の自由主義と社会主義       | 冷戦下の自由主義、社会主義、開発途上国の経済政策を比較し、相互関係を理解する。        | 冷戦下の経済政策の多様性を分析し、開発途上国の経済発展における課題を説明できる。  | ○  | ○   | ○   |
| ～学年末考査   | 4-2-⑤ 冷戦下の自由主義と社会主義       | 冷戦下の自由主義、社会主義、開発途上国の経済政策を比較し、相互関係を理解する。        | 冷戦下の経済政策の多様性を分析し、開発途上国の経済発展における課題を説明できる。  | ○  | ○   | ○   |
|          | 4-2-⑥ 冷戦下の自由主義と社会主義       | 冷戦下の自由主義、社会主義、開発途上国の経済政策を比較し、相互関係を理解する。        | 冷戦下の経済政策の多様性を分析し、開発途上国の経済発展における課題を説明できる。  | ○  | ○   | ○   |
|          | 4-2-⑦ 冷戦下の自由主義と社会主義       | 冷戦下の自由主義、社会主義、開発途上国の経済政策を比較し、相互関係を理解する。        | 冷戦下の経済政策の多様性を分析し、開発途上国の経済発展における課題を説明できる。  | ○  | ○   | ○   |
|          | 4-2-⑧ 冷戦下の自由主義と社会主義       | 冷戦下の自由主義、社会主義、開発途上国の経済政策を比較し、相互関係を理解する。        | 冷戦下の経済政策の多様性を分析し、開発途上国の経済発展における課題を説明できる。  | ○  | ○   | ○   |
|          | 4-2-⑨ 冷戦下の自由主義と社会主義       | 冷戦下の自由主義、社会主義、開発途上国の経済政策を比較し、相互関係を理解する。        | 冷戦下の経済政策の多様性を分析し、開発途上国の経済発展における課題を説明できる。  | ○  | ○   | ○   |
|          | 4-2-⑩ 冷戦下の自由主義と社会主義       | 冷戦下の自由主義、社会主義、開発途上国の経済政策を比較し、相互関係を理解する。        | 冷戦下の経済政策の多様性を分析し、開発途上国の経済発展における課題を説明できる。  | ○  | ○   | ○   |
|          | 4-3-① 冷戦下の自由主義と社会主義       | 冷戦下の自由主義、社会主義、開発途上国の経済政策を比較し、相互関係を理解する。        | 冷戦下の経済政策の多様性を分析し、開発途上国の経済発展における課題を説明できる。  | ○  | ○   | ○   |
|          | 4-3-② 冷戦下の自由主義と社会主義       | 冷戦下の自由主義、社会主義、開発途上国の経済政策を比較し、相互関係を理解する。        | 冷戦下の経済政策の多様性を分析し、開発途上国の経済発展における課題を説明できる。  | ○  | ○   | ○   |
|          | 4-3-③ 冷戦下の自由主義と社会主義       | 冷戦下の自由主義、社会主義、開発途上国の経済政策を比較し、相互関係を理解する。        | 冷戦下の経済政策の多様性を分析し、開発途上国の経済発展における課題を説明できる。  | ○  | ○   | ○   |
|          | 4-3-④ 冷戦下の自由主義と社会主義       | 冷戦下の自由主義、社会主義、開発途上国の経済政策を比較し、相互関係を理解する。        | 冷戦下の経済政策の多様性を分析し、開発途上国の経済発展における課題を説明できる。  | ○  | ○   | ○   |

|          |                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |    |     |    |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|----|
| 教科・科目    | 公民・公共                                                                                                                                                                                   | 使用教科書                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 高等学校『新公共』                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |    |     |    |
| 単位数      | 2単位                                                                                                                                                                                     | 使用副教材                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 公共ノート（第一学習社）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |    |     |    |
| 対象学年・学科  | 2年 農業科                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |    |     |    |
| 科目の概要と目標 | 1. 地域的特色と、日本及び世界との関わりを理解するとともに、調査や情報を効果的にまとめる技能を身に付けた生徒を育成する。<br>2. 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動に取り組むことのできる生徒を育成する。<br>3. 多面的、多角的な考察や深い理解を通して、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする生徒の態度を養う。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |    |     |    |
| 実施時期     | 単元                                                                                                                                                                                      | 学習内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 到達度目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 知識 | 思考力 | 主体 |
| 4月       | 第1編 公共の課題<br>第1章 公共的な空間をつくる私たち<br>①社会に生きる私たち                                                                                                                                            | 社会に参画する自立した主体とは、独立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを理解する。                                                                                                                                                                                                                                                     | 人生において青年期がもつ意味や役割を理解している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | ○  |     |    |
|          | ②個人の尊厳と自主・自律                                                                                                                                                                            | 公共的な空間で生きていくために必要なこととして、個人として尊重されることや、対話を通して他者を理解すること理解する。                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 人間は個人として相互に尊重されるべき存在であることを理解している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | ○  |     |    |
|          | ③多様性と共通性                                                                                                                                                                                | 公共的な空間で生きていくために必要なこととして、個人として尊重されることや、対話を通して他者を理解すること理解する。                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 人間は対話をおして他者や異文化について理解しあえる社会的な存在であることを理解している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | ○  |     |    |
|          | ④伝統文化とのかかわり                                                                                                                                                                             | 伝統や文化と、自らの行動様式や考え方との関係について理解する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 伝統や文化とは何かを理解している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | ○  |     |    |
|          | ⑤自立した主体をめざして                                                                                                                                                                            | 生涯にわたって学習していくことの意義を考える。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 自立した主体になることが各人のキャリア形成とよりよい社会の形成に結びつく理由を多面的・多角的に考察し、説明している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |    | ○   |    |
| 5月       | 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方<br>①人間と社会のあり方についての見方・考え方<br>●実社会の事例から考える～環境保護<br>●実社会の事例から考える～生命倫理                                                                                           | ・古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。<br>・選択・判断の手掛かりとなる考え方を活用し、環境保護や生命倫理など実社会の問題を考える。                                                                                                                                                                                                                                        | ・事例から、問題解決に向けて選択・判断の手掛かりとしての二つの考え方をともに、行者者自身の人間としてのあり方生き方について探求することが、よりよく生きる上で重要であることを理解している。<br>・人間と社会のあり方について、選択・判断の手掛かりとなる二つの考え方を使って現代社会に見られる課題の解決を視野に開くとうとしている。<br>・人間と社会のあり方について、実際の事例を参考に現代社会に見られる課題の解決を視野に開くとうとしている。                                                                                                                                                 |    | ○   | ○  |
|          | 第3章 公共的な空間における基本的原理<br>①人間の尊厳と平等、個人の尊重<br>②民主主義と法の支配<br>③自由・権利と責任・義務<br>④日本国憲法に生きる基本的原理                                                                                                 | ・古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。<br>・人権保障のあり方や世界の政治体制、日本国憲法などを通して、公共的な空間における基本的原理が、現代社会でどのような形で生み出されているかを理解する。                                                                                                                                                                                                                          | ・人間の尊厳と平等、個人の尊重とは何かを理解している。<br>・民主主義、法の支配とは何かを理解している。<br>・自由・権利と責任・義務とは何かを理解している。<br>・公共的な空間における基本的原理が、日本国憲法にどのようにいかされているかを理解している。                                                                                                                                                                                                                                          | ○  |     |    |
|          | 中間考査                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | ○  | ○   | ○  |
|          | 第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち<br>第1章 法的な主体となる私たち<br>①私たちと法                                                                                                                             | 法やルールを定める時には、どのようなことに配慮が必要があるかを理解する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 法によって解決することが適切なものどのような問題かを多面的・多角的に考察し、説明している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |    |     | ○  |
|          | ②法と基本的人権<br>③自由と平等の権利と法・規範<br>④平等に生きる権利と法・規範<br>⑤安全で豊かに生きる権利と法・規範<br>⑥法をよりよいものにするための権利                                                                                                  | ・身のまわりの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について理解し、その解決策を考える。<br>・安全で豊かに生き、法をよりよいものにするための権利や、それを実現するための法・規範を理解する。                                                                                                                                                                                                                                               | ・公法と私法の違いや、基本的人権と法との関わりについて理解している。<br>・日本国憲法が保障する自由とはどのようなものかを理解している。<br>・日本国憲法が保障する平等とはどのようなものかを理解している。<br>・日本国憲法が保障する安全とはどのようなものかを理解している。<br>・新しい人権が主張されているにいたった経緯を理解している。                                                                                                                                                                                                | ○  |     |    |
| 7月       | 主題2 契約と消費者の権利・責任<br>①さまざまな契約と法<br>②消費者の権利と責任                                                                                                                                            | ・契約が対等な当事者間の合意といえるための条件を理解する。<br>・なぜ契約が生まれ、契約を守る必要が大切なのかを理解する。<br>・消費者と事業者を対等な立場に置き、消費者主権を実現するために、消費者に関する法律が定められていることを理解する。                                                                                                                                                                                                                         | ・契約自由の原則や、成年年齢の意味、成金の責任について理解している。<br>・消費活動について、家族など学んだ知識もふまえて、現代社会に見られる課題の解決を視野に開くとうとしている。                                                                                                                                                                                                                                                                                 |    |     |    |
|          | 主題3 司法参画の意義<br>①裁判所と司法<br>②国民の司法参加                                                                                                                                                      | ・個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なくと、国民が果たすべき責任を理解する。<br>・なぜ裁判所が必要なのか、司法権の独立や裁判所のしくみ、最高裁判所の違憲審査権から理解する。                                                                                                                                                                                                                                                  | ・裁判所の役割や裁判員制度について理解している。<br>・司法参加の意義に関わる現実社会の事例や課題を理解している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | ○  | ○   | ○  |
|          | 第2章 政治的な主体となる私たち<br>主題4 政治参加と公正な世論形成<br>①私たちと選挙<br>②選挙の現状と課題<br>③世論の形成と政治参加<br>④国会と立法<br>⑤内閣と行政<br>⑥地方自治と住民福祉                                                                           | ・民主政治を推進するために、私たちが果たすべき責任を理解する。<br>・選挙の意義や課題、世論の形成や政治の役割を理解する。<br>・主権者である国民と国会・内閣の関係を理解する。<br>・地域社会の課題に、私たちの意思を反映させるにはどうすればよいかを理解する。                                                                                                                                                                                                                | ・選挙権年齢が18歳以上であることをふまえて、選挙の意義を理解している。<br>・政治の仕組みについて多面的・多角的に考察し、説明している。<br>・政治参加と公正な世論の形成について、現代社会に見られる課題の解決を視野に開くとうとしている。<br>・議院内閣制のしくみ、内閣総理大臣の権限、行政の民主化について理解している。<br>・地方自治の運営状況について理解している。                                                                                                                                                                                |    | ○   | ○  |
|          | 主題5 国際社会と国家主権<br>①国家と国際法<br>②国境と領土問題<br>③国際連合の役割と課題                                                                                                                                     | ・主権国家が並び立つ国際社会とは、どのように成立しているのかを理解する。<br>・領土問題の背景と現状を理解する。<br>・国際社会の平和と安定を維持するための国際連合の取り組みを理解する。                                                                                                                                                                                                                                                     | ・国際社会と国家主権に関わる現実社会の事例や課題を理解している。<br>・人権・民族問題、地域紛争、移民問題の現状について理解している。<br>・世界で発生している領土問題の現状や背景を理解している。<br>・国連が設立された背景や国連の機能について理解している。                                                                                                                                                                                                                                        | ○  |     |    |
|          | 主題6 日本の安全保障と防衛<br>①平和主義と安全保障<br>②日本の安全保障体制の変容<br>③核兵器の廃絶と国際平和                                                                                                                           | ・日本国憲法の平和主義の下、私たちが果たすべき責任を理解する。<br>・日本の安全保障体制の変容とその背景にある国際社会の変化を理解する。<br>・軍備の削減や国際社会や私たちに何が必要かを考える。                                                                                                                                                                                                                                                 | ・日本国憲法における平和主義について理解している。<br>・自衛隊や日本の安全保障についてはさまざまな立場からの意見があることを理解している。<br>・核兵器を廃絶するために何が必要かを考え、軍縮の意義や効果について多面的・多角的に考察し、説明している。                                                                                                                                                                                                                                             | ○  |     |    |
| 10月      | 主題7 国際社会の変遷と日本の役割<br>①今日の国際社会<br>②人権・民族問題と地域紛争<br>③国際社会における日本の役割                                                                                                                        | ・今日の国際社会の特徴について理解する。<br>・人権・民族問題と地域紛争、移民問題の現状について理解する。<br>・国際社会における日本の役割を理解する。                                                                                                                                                                                                                                                                      | ・冷戦終結後の国際社会の状況について理解している。<br>・人権・民族問題、地域紛争、移民問題の現状について理解している。<br>・国際社会における日本の役割に関わる現実社会の事例や課題を理解している。                                                                                                                                                                                                                                                                       | ○  | ○   | ○  |
| 11月      | 第3章 経済的な主体となる私たち<br>主題8 雇用と労働問題<br>①私たちと経済<br>②労働者と権利<br>③労働環境と課題                                                                                                                       | ・少子高齢化による労働力不足問題となる中、活発な経済活動と労働者の働きやすさを共に成り立たせるために必要であることを理解する。<br>・経済の基本的なしくみを理解し、経済的意義決定が将来の選択に役立つことを理解する。<br>・労働者を守るための法や権利を理解する。<br>・労働問題やその背景にある社会の変化を理解する。                                                                                                                                                                                    | ・経済の基本的なしくみや考え方を理解している。<br>・労働者を守るさまざまな法律について、現代社会に見られる課題の解決を視野に開くとうとしている。<br>・労働問題について、現代社会に見られる課題の解決を視野に開くとうとしている。                                                                                                                                                                                                                                                        |    |     | ○  |
|          | 第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち<br>主題9 社会の変化と職業観<br>①日本経済のこれまでとこれから<br>②技術革新の進展<br>③現代の企業<br>④中小企業の現状と役割<br>⑤日本の農林水産業                                                                    | ・グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどう考えていけばよいか理解する。<br>・第一と世界で戦う現代までの日本経済のありか、現代の経済の課題を理解する。<br>・情報化の進展が日本経済や中小企業、農林水産業の課題の解決にどのようなにたらしているかを理解する。                                                                                                                                                                                                  | ・歴史など他教科で学んだ知識もふまえて、第二次世界大戦後の経済環境の変化について多面的・多角的に考察し、説明している。<br>・情報など他教科で学んだ知識もふまえて、技術革新の進展による生活の変化、産業構造の変化、経済のサービス化・ソフト化について、身近な問題と関連させて多面的・多角的に考察し、説明している。                                                                                                                                                                                                                 |    | ○   |    |
|          | 主題10 市場経済の機能と限界<br>①市場経済と経済運営<br>②市場のしくみ<br>③経済発展と環境保全<br>④国民所得と私たちの生活<br>⑤経済成長と国民の福祉                                                                                                   | ・公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。<br>・経済における政府の関わり方について、どのような考えがあるかを理解する。<br>・市場における需要と供給の関係について理解する。<br>・市場の失敗の例の一つである公害について、その種類や対策の取り組みを理解する。<br>・国民所得や景気変動を理解し、私たちが豊かに暮らすための指標について考える。                                                                                                                                                 | ・経済における政府の関わり方を理解している。<br>・市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事例や課題、需要と供給の関係について理解している。<br>・公害問題と環境保全について理解している。<br>・国民所得や景気変動の理解やしくみについて理解している。<br>・国民所得や景気変動について理解している。                                                                                                                                                                                                                   | ○  |     |    |
|          | 主題11 金融の役割と役割<br>①金融の意義と役割<br>②金融のしくみ                                                                                                                                                   | ・経済において、金融市場はどのような役割を果たしているのかを理解する。<br>・中央銀行は日本経済の状況に応じて、どのような金融政策をとっているのかを理解する。<br>・社会の変化が、金融にどのような影響を与えているのかを理解する。<br>・投資の意義や投資に必要な考え方を理解する。                                                                                                                                                                                                      | ・金融機関や日本銀行の役割を理解している。<br>・金融の自由化の背景を理解している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | ○  |     |    |
|          | 主題12 財政の役割と社会保障<br>①財政のしくみと税<br>②日本の財政の課題<br>③社会保障と国民福祉<br>④これらの社会保障                                                                                                                    | ・少子高齢化が進む中で、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。<br>・財政の意義やしくみ、日本の財政の課題を理解する。<br>・社会保障の意義やしくみ、日本の社会保障制度の課題を理解する。                                                                                                                                                                                                                      | ・税金の使われ方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に開くとうとしている。<br>・日本の財政の課題を理解している。<br>・社会保障の意義やしくみを理解している。<br>・持続可能な社会保障制度のあり方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に開くとうとしている。                                                                                                                                                                                                                                 |    |     | ○  |
| 2月       | 主題13 経済のグローバル化<br>①国際分業と貿易<br>②国際収支と国際貿易<br>③外国為替相場の動き<br>④グローバル化する経済<br>⑤地域的経済統合<br>⑥国際社会における貧困や格差<br>⑦地球環境問題<br>⑧資源・エネルギー問題<br>⑨国際社会のこれから                                             | ・経済がグローバル化する中で、貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきかを考える。<br>・自由貿易と保護貿易の違いについて考え、自由貿易を進めるための国際機関の機能と役割を理解する。<br>・外為為替相場の変動が及ぼす影響やその要因について理解する。<br>・経済のグローバル化が日本経済にどのような影響を及ぼしているかを理解する。<br>・地域的経済統合のメリット・デメリットを理解し、日本のこれらの貿易政策はどのようなべきかを考える。<br>・国際社会における貧困や格差の問題を理解し、発展途上の国々の経済成長のために何が必要かを理解する。<br>・経済発展の影響として、地球環境問題や資源・エネルギー問題を理解する。 | ・貿易の必要性や、自由貿易と保護貿易の違いを理解している。<br>・国際収支の増減と、国際収支の均衡のための国際機関の機能と役割を理解している。<br>・円高・円安のしくみとその影響について理解している。<br>・経済のグローバル化の正負の両面や、グローバル化が日本経済におよぼす影響について理解している。<br>・地域的経済統合のメリットとデメリットを理解している。<br>・南北格差の問題や発展途上の国々抱える問題について理解している。<br>・地球環境問題の解決に向けた取り組みについて多面的・多角的に考察し、説明している。<br>・循環型社会の形成に向けて、エネルギーのベストミックスを多面的・多角的に考察し、説明している。<br>・人口問題や食料問題に対する日本の役割について、多面的・多角的に考察し、説明している。 |    | ○   |    |
|          | 学年末考査                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | ○  | ○   | ○  |
|          | 第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち<br>①排出権取引を考える～地球環境問題<br>②スマートリクスを考える～資源・エネルギー問題<br>③グロム編集を考える～生命倫理<br>④インターネットによる投票を考える～情報<br>⑤フェアトレードを考える～国際社会の課題                                              | 持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を行う。                                                                                                                                                                                                                                                          | ・課題の解決に向けて、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、多面的・多角的に考察し、説明している。<br>・これまでの学習に関連して、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。<br>・その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論議を基に自分の考えを説明、論述している。                                                                                                                                                                                          |    |     | ○  |

|          |                                                                                       |       |                       |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----------------------|
| 教科・科目    | 数学・数学Ⅰ                                                                                | 使用教科書 | 新 高校の数学Ⅰ(数研出版)        |
| 単位数      | 3                                                                                     | 使用副教材 | 改訂版 ポイントノート 数学Ⅰ(数研出版) |
| 対象学年・学科  | 1 年 農業科・5 組                                                                           |       |                       |
| 科目の概要と目標 | 方程式と不等式および2次関数について、基礎的な知識の習得と技術の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。 |       |                       |

| 実施時期      | 単元                                         | 学習内容                                                                        | 到達度目標                                                                                                                                                                                                                                                                       | 知識 | 思判表 | 主体 |
|-----------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|----|
| 4 月、5 月   | 1 章<br>数と式<br><br>1 節 数と式の計算               | 1 節<br>①計算の基本<br>②単項式と多項式<br>③多項式の加法と減法<br>④多項式の乗法<br>⑤展開の公式<br>⑥因数分解       | ・ 中学の復習をしながら、方程式の意味や解法について学ぶ。<br>・ 因数分解を利用して2次方程式を解くことができるようになる。<br>・ 平方根の考えに基づいて2次方程式を解くことができるようになる。<br>・ 2次方程式の解の公式を導く過程を考え、その公式を利用して2次方程式を解くことができるようになる。                                                                                                                 | ○  |     | ○  |
| 中間考査      |                                            |                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                             | ○  | ○   | ○  |
|           | 1 章<br>数と式<br><br>1 節 数と式の計算<br>2 節 1 次不等式 | 1 節<br>⑦展開、因数分解の工夫<br>⑧根号を含む式の計算<br>⑨実数<br>2 節<br>①1 次方程式<br>②不等式<br>③不等式の解 | ・ 2次方程式を利用して、応用問題が解けるようになる。<br>・ 身近な例を使って不等式をつくり、不等式の意味や不等式の解の意味を理解する。<br>・ 不等式をみたす $x$ の値の範囲を数直線上に図示できるようになる。<br>・ 不等式の性質を学び、1 次方程式の解法と対比しながら、1 次不等式を解くことができるようになる。<br>・ 連立不等式の意味を理解し、その解を求められるようになる。                                                                      |    | ○   | ○  |
| 6 月       | 2 章<br>2 次関数<br><br>1 節 2 次関数のグラフ          | 1 節<br>①関数<br>②1 次関数のグラフ<br>③2 次関数のグラフ(1)<br>④2 次関数のグラフ(2)                  | ・ 関数の概念、関数の値やそのグラフについて理解する。<br>・ 2次関数の特徴を捉え、2 次関数のグラフを描くことができるようになる。                                                                                                                                                                                                        | ○  |     |    |
| 期末考査      |                                            |                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                             | ○  | ○   | ○  |
| 7 月、9 月   | 2 章<br>2 次関数<br><br>2 節 2 次関数の値の変化         | 2 節<br>①2 次関数の最大値、最小値                                                       | ・ 定義域に注意して、2 次関数の最大・最小を求めることができる。<br>・ 与えられた条件から、2 次関数を決定することができる。                                                                                                                                                                                                          |    | ○   | ○  |
| 1 0 月     |                                            | 2 節<br>②グラフと2次方程式<br>③グラフと2次不等式                                             | ・ 中学の復習をしながら、方程式の意味や解法について学ぶ。<br>・ 因数分解を利用して2次方程式を解くことができるようになる。<br>・ 平方根の考えに基づいて2次方程式を解くことができるようになる。<br>・ 解の公式を利用して2次方程式を解くことができるようになる。<br>・ 2次方程式を利用して、応用問題が解けるようになる。<br>・ グラフを利用して、不等式が解けるようになる。                                                                         | ○  | ○   |    |
| 中間考査      |                                            |                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                             | ○  | ○   | ○  |
| 1 1 月     | 3 章<br>図形と計量<br><br>1 節 三角比                | 1 節<br>①直角三角形<br>②三角比<br>③三角比の利用<br>④三角比の相互関係<br>⑤鈍角の三角比                    | ・ 鋭角の三角比について学び、活用できるようになる。<br>・ 三つの辺と三つの角の正弦の関係を学び、活用できるようになる。<br>・ 座標や単位円を用いることによって、三角比を $0^\circ$ から $180^\circ$ まで拡張できることを理解し、鈍角の三角比の値が求められるようになる。                                                                                                                       | ○  |     | ○  |
| 1 2 月     | 3 章<br>図形と計量<br><br>2 節 三角形への応用            | 2 節<br>①正弦定理<br>②余弦定理<br>③三角形の面積                                            | ・ 二辺とその間の角の余弦を用いて、三角形の他の一辺の長さを求めることができるようになる。<br>・ 二辺とその間の角の正弦を用いて、三角形の面積を求めることができるようになる。<br>・ 三角比と空間図形を関連させて、高さや距離を求められるようになる。                                                                                                                                             |    | ○   |    |
| 期末考査      |                                            |                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                             | ○  | ○   | ○  |
| 1 2 月、1 月 | 4 章<br>集合と命題                               | ①集合<br>②命題と集合<br>③必要条件と十分条件                                                 | ・ 集合の包含関係、共通部分と和集合、空集合、補集合、ド・モルガンの法則を理解する。<br>・ 集合に関する記号の意味を理解し、適切に使うことができる。<br>・ 命題と条件、必要条件、十分条件、必要十分条件の用語の定義を学び、さらに、図表示による包含関係と関連づけて理解する。<br>・ 命題の逆・裏・対偶を理解する。また、対偶を利用した証明法や背理法による証明法を習得するとともに論理的な思考力を養う。                                                                 |    | ○   | ○  |
| 2 月       | 5 章<br>データの分析                              | ①データの整理<br>②データの代表値<br>③データの散らばり<br>④データの相関                                 | ・ 度数分布、ヒストグラムの意味を理解する。また、それらを作成し、目的に応じて資料を整理できるようになる。<br>・ 各代表値の意味を理解し、それぞれの特徴を踏まえ、データの傾向を的確にとらえることができるようになる。<br>・ 複数のデータを比較するために、四分位数や箱ひげ図の意味を理解し、描くことができるようになる。<br>・ 2 つの変量の間の関係を表す散布図の意味を理解し、それをもとに相関関係を考えることができるようになる。<br>・ 相関関係の度合いを数値的に表す相関係数の意味を理解し、相関係数を計算できるようになる。 | ○  |     | ○  |
| 学年末考査     |                                            |                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                             | ○  | ○   | ○  |
| 3 月       | 5 章<br>データの分析                              | ⑤仮説検定の考え方                                                                   | ・ 仮説検定の考え方を理解し、簡単な事象について、仮説検定を行うことができるようになる。                                                                                                                                                                                                                                |    | ○   | ○  |

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |       |                             |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----------------------------|
| 教科・科目    | 理科・科学と人間生活                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 使用教科書 | 高等学校 科学と人間生活（第一学習社）         |
| 単位数      | 2 単位                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 使用副教材 | 新課程版 科学と人間生活 ネオパルノート（第一学習社） |
| 対象学年・学科  | 1 年・農業科                                                                                                                                                                                                                                                                                          |       |                             |
| 科目の概要と目標 | 自然と人間生活とのかかわり，および科学技術が人間生活に果たしてきた役割について，身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解させ，科学的な見方や考え方を養うとともに，科学に対する興味・関心を高める。科学技術の発展が，今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解させる。身近な自然の事物・現象および日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ，科学と人間生活とのかかわりについて認識を深めさせる。自然と人間生活とのかかわり，および科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて，これからの科学と人間生活とのかかわり方について考察させる。 |       |                             |

| 実施時期  | 単元                            | 学習内容                                                                                                         | 到達度目標                                                                                                                                                                                                                                              | 知識 | 思判表 | 主体 |
|-------|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|----|
| 4, 5月 | 第Ⅰ章 物質の科学<br>第2節 衣料と食品        | 観察，実験などを行い，身近な衣料材料の性質や用途，食品中のおもな成分の性質について，日常生活と関連付けて理解する。                                                    | ・繊維の種類と性質，構造と染色について理解している。<br>・食物中の栄養素と，それが体内に取りこまれる過程について理解している。<br>・天然繊維，化学繊維の違いや構造上の特徴から，用途の違いについて考察することができる。<br>・身のまわりにある繊維について興味をもち，その種類や性質，衣料材料の構造と加工について理解しようとする。<br>・炭水化物，タンパク質，脂質やその他の栄養素について関心を抱き，化学的な構造や性質，生体内でのはたらきについて理解しようとする。       | ○  | ○   | ○  |
| 中間考査  |                               |                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                    | ○  | ○   | ○  |
| 5, 6月 | 第Ⅱ章 生命の科学<br>第2節 微生物とその利用     | 観察，実験などを行い，微生物のはたらきを人間生活と関連付けて理解する。                                                                          | ・身のまわりには多様な微生物が存在することを理解している。<br>・微生物の利用の広がりについて理解している。<br>・自然界のどのような場所にどのような微生物が生息しているか，どのような役割を果たしているかを考察することができる。<br>・身のまわりに生息する微生物に関心を抱き，自然界にみられるさまざまな微生物について理解しようとする。<br>・日常生活への微生物の応用に興味をもち，医薬品への利用や，これからの微生物の利用について思考しようとする。                | ○  | ○   | ○  |
| 期末考査  |                               |                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                    | ○  | ○   | ○  |
| 9月    | 第Ⅲ章 熱や光の科学<br>第1節 熱の性質とその利用   | 観察，実験などを行い，熱の性質，エネルギーの変換と保存および有効利用について，日常生活と関連付けて理解する。                                                       | ・絶対温度，熱運動，熱量の保存，熱容量と比熱について理解している。<br>・省エネルギーの試みやエネルギー資源の開発について理解している。<br>・物体の熱量や熱容量を計算することができる。<br>・ジュールの法則の式から，電力量や電力を求めることができる。<br>・身近で体感する温度に興味をもち，熱量の保存や比熱，熱の伝わり方などの，熱の性質について理解しようとする。<br>・エネルギー資源に関心を抱き，省エネルギーの試みや，代替エネルギーの開発に関する知識を習得しようとする。 |    | ○   | ○  |
| 10月   | 第2節 光の性質とその利用                 | 観察，実験などを行い，光を中心とした電磁波の性質とその利用について，日常生活と関連付けて理解する。                                                            | ・光の速さを調べようとした過去の実験を通して，光の速さについて理解している。<br>・光の反射・屈折・分散・散乱・回折・干渉・偏光について理解している。<br>・身のまわりの光に興味をもち，光の反射・屈折・分散・散乱・回折・干渉・偏光などの現象について理解しようとする。<br>・日常生活に利用される電磁波について意欲的に学習し，情報通信，医療などへの電磁波の利用について理解しようとする。                                                | ○  |     | ○  |
| 中間考査  |                               |                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                    | ○  | ○   | ○  |
| 11月   | 第Ⅳ章 地球や宇宙の科学<br>第1節 自然景観と自然災害 | 観察，実験などを行い，身近な自然景観の成り立ちと自然災害について，人間生活と関連付けて理解する。                                                             | ・日本列島と，その付近のプレートの動きを理解している。<br>・地震災害，気象災害と防災について理解している。<br>・日本列島のさまざまな景観は，地球内部のエネルギーと太陽から放射されるエネルギーの作用によって形成されたものであることを考察できる。<br>・災害がおこるしくみから，防災のためにどのような取り組みが必要かを考察できる。<br>・火山災害や地震災害，気象災害に関心を抱き，これらのおこるしくみや防災について理解しようとする。                       | ○  |     | ○  |
| 12月   | 第2節 太陽と地球                     | 観察，実験などを行い，太陽などの身近に見られる天体の運動や太陽の放射エネルギーについて，人間生活と関連付けて理解する。                                                  | ・太陽系の構造を理解している。<br>・地球型惑星と木星型惑星との相違点を理解している。<br>・天体の動き，太陽や月の動きについて理解している。<br>・太陽系を構成する惑星を，その特徴から，地球型惑星と木星型惑星に大別することができる。<br>・太陽系とそれを構成する天体に興味をもち，太陽系を構成する天体の共通点や相違点を理解しようとする。                                                                      |    | ○   | ○  |
| 期末考査  |                               |                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                    | ○  | ○   | ○  |
| 1, 2月 | 第Ⅴ章 これからの科学と人間生活              | ・自然と人間生活との関わりおよび科学技術と人間生活との関わりについての学習を踏まえ，課題を設定し探究することで，これからの科学と人間生活とのかかわり方について認識を深めるとともに，科学的に考察し表現できるようになる。 | ・課題の設定と研究の進め方に興味をもち，さまざまな課題を設定して意欲的に研究に取り組もうとする。<br>・レポートの作成に関心を抱き，論理的でわかりやすく，正確なレポートを作成しようとする。<br>・研究発表に興味を抱き，意欲的にプレゼンテーション資料を作成し，積極的に発表しようとする。                                                                                                   | ○  | ○   | ○  |
| 学年末考査 |                               |                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                    | ○  | ○   | ○  |
| 3月    | 第Ⅴ章 これからの科学と人間生活              | ・自然と人間生活との関わりおよび科学技術と人間生活との関わりについての学習を踏まえ，課題を設定し探究することで，これからの科学と人間生活とのかかわり方について認識を深めるとともに，科学的に考察し表現できるようになる。 | ・課題の設定と研究の進め方に興味をもち，さまざまな課題を設定して意欲的に研究に取り組もうとする。<br>・レポートの作成に関心を抱き，論理的でわかりやすく，正確なレポートを作成しようとする。<br>・研究発表に興味を抱き，意欲的にプレゼンテーション資料を作成し，積極的に発表しようとする。                                                                                                   |    |     | ○  |

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |       |                        |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------------------------|
| 教科・科目    | 理科・化学基礎                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 使用教科書 | 化学基礎（実教出版）             |
| 単位数      | 2                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 使用副教材 | 高校化学基礎カラーノート新課程版（実教出版） |
| 対象学年・学科  | 1年 農業科<br>2年 普通科<br>観光ビジネスコース・文系                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |       |                        |
| 科目の概要と目標 | <ul style="list-style-type: none"><li>・化学に関する事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。</li><li>・観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、化学に関する事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。</li><li>・自然界や産業界にある事物・現象の中に問題を見出し、化学的に探究する過程を通して、事象を科学的・論理的に考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。</li><li>・自然の事物・現象に進んでかわかり、科学的に探究しようとする態度が養われている。</li><li>・自然の原理・法則や科学技術と私たちの生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる化学に対する興味・関心を高めている。</li></ul> |       |                        |

| 実施時期      | 単元                                                       | 学習内容                                                                                                                   | 到達目標                                                                                                                                                                                                     | 知識 | 思判表 | 主体 |
|-----------|----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|----|
| 4月        | 1章 物質の構成<br>1節 物質の探究<br>1 物質の分類と性質                       | 混合物と純物質の違いを理解し、自然界の物質の多くが混合物であることを理解する。また、混合物から目的の物質を分離するには、物質の性質にあわせた方法があることを知る。元素の意味を知り、純物質のなりたちを理解する。               | 身のまわりの物質を純物質と混合物に分類することができる。実験の基本操作と検出方法について理解し、物質を探究するための具体的な方法を身につける。また、実験結果を考察し、発表することができる。<br>【実験】混合物の分離                                                                                             | ○  |     | ○  |
|           | 2 物質と元素                                                  | 元素の意味を知り、純物質のなりたちを理解する。                                                                                                | 物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとする。<br>【実験】硫黄の同素体をつくる、炎色反応                                                                                                                                             |    |     | ○  |
|           | 3 物質の三態と熱運動                                              | 粒子の熱運動と温度および物質の三態変化との関係について理解する。                                                                                       | 身近な物質の三態変化と、粒子の熱運動と温度との関係に関心をもち、それらを意欲的に探究しようとする。粒子の熱運動と粒子間にはたらく力との関係を理解し、物質の状態変化について粒子の運動をもとに考えることができる。                                                                                                 | ○  | ○   |    |
| 5月        | 2節 物質の構成粒子<br>1 原子の構造                                    | 原子の構造および陽子、中性子、電子の性質を理解する。同位体の定義とその性質を理解する。                                                                            | 物質が原子から成り立っていることを理解する。また、原子構造の簡単なモデルを描く技能を習得し、的確に表現する。原子は原子核と電子からなっていて、価電子が物質の性質を決めていることを推論・理解できる。また、同位体についての正しい知識を身につけている。                                                                              | ○  | ○   |    |
|           | 2 イオンの生成                                                 | 陽イオン、陰イオンの生成のしくみを理解する。                                                                                                 | 単原子イオンの生成について理解できる。イオンの表し方を理解し、代表的な単原子イオン、多原子イオンを表すことができる。イオン化エネルギーと電子親和力について理解できる。                                                                                                                      | ○  | ○   |    |
|           | 3 元素の周期表                                                 | 元素の周期律および原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。                                                                                 | イオンの生成を電子配置と関連づけて考えることができる。元素の性質に興味をもち、元素の性質が周期的に変われることを探究しようとする。また、元素の性質が電子配置と関係しており、現在の周期表がつくられていることを理解することができる。                                                                                       | ○  |     | ○  |
| 中間考査      |                                                          |                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                          |    |     |    |
| 5月        | 2章 物質と化学結合<br>1節 イオン結合<br>1 イオン結合とイオン結晶                  | 陽イオンと陰イオン間の静電的引力によりイオン結合が形成されることを理解する。                                                                                 | イオン結合がイオン間の静電的な引力による結合であることを理解している。                                                                                                                                                                      | ○  |     |    |
|           | 2 イオン結合からなる物質                                            | イオン結晶の組成式のつくりかたやイオン結晶の性質を理解する。                                                                                         | イオン結合でできた物質に共通する性質について、推論することができる。水溶液中や熔融した状態のイオンの挙動をイメージし、表現することができる。イオン結合でできた物質の性質について探究しようとする。<br>【実験】沈殿反応による試薬の特定                                                                                    | ○  | ○   |    |
| 6月        | 2節 共有結合と分子間力<br>1 共有結合と分子<br>2 分子間力と分子結晶<br>3 共有結合からなる物質 | 分子中の原子の結合および分子の構造を表す方法を理解する。                                                                                           | 共有結合を電子配置と関連づけて理解することができる。また、配位結合について理解している。分子の電子式・構造式を書くことができる。分子の模型を利用して、分子の結合と形について考えることができる。<br>電気陰性度を理解し、分子の形とあわせて極性について考えることができる。「実験 分子の極性と溶解」を行い、極性についての理解を深め、実験で得た知識を発表することができる。<br>【実験】分子の極性と溶解 | ○  |     | ○  |
|           | 3節 金属結合<br>1 金属結合と金属結晶<br>2 金属                           | 金属元素の結合と性質を理解する。また、種々の金属について理解する。                                                                                      | 金属結合が自由電子の介在した結合であることを理解し、電気伝導性や展性、延性などの金属の性質と関連付けて理解している。                                                                                                                                               | ○  |     |    |
|           | 4節 化学結合と物質<br>1 結晶の分類<br>2 化学結合と身のまわりの物質                 | それぞれの化学結合によってできた結晶について、その性質や構成粒子などを比較し、理解する。それぞれの化学結合でできた代表的な物質について理解する。                                               | 1～3節で学習した化学結合の種類を系統だてて理解している。身近な物質を化学結合の種類と結び付けて考えることができる。                                                                                                                                               | ○  |     | ○  |
| 期末考査      |                                                          |                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                          |    |     |    |
| 7月        | 3章 物質の変化<br>1節 物質と化学反応式<br>1 原子量と分子量・式量                  | 非常に小さな質量の原子や分子の質量は、 <sup>12</sup> Cを基準にした相対質量で表されることを知る。また、原子量は、同位体の各原子の相対質量の平均値であることを理解する。                            | 原子量・分子量・式量と物質量の関係を論理的・分析的・包括的に理解できているとともに、物質量を用いた基本的な計算ができる。化学式が使用できるとともに、原子量・分子量・式量・物質量の知識を身につけている。                                                                                                     | ○  |     |    |
| 9月        | 2 物質量                                                    | 原子量や分子量などに単位グラムをつけた質量中には、同数の原子や分子などが含まれることを理解させ、その具体的な数値が6.0×10 <sup>23</sup> 個で、この粒子の集団を1 molということを知る。                | 物質量について、その定義と粒子数との関係を理解できる。物質量と質量の関係について理解できる。アボガドロの法則を理解し、物質量と気体の体積の関係を理解できる。物質量と粒子数、質量、気体の体積の相互関係を理解し、計算で求めることができる。                                                                                    | ○  | ○   |    |
|           | 3 溶液の濃度                                                  | 溶液の濃さを表す方法を学習し、質量パーセント濃度、モル濃度の計算を習得する。                                                                                 | モル濃度が、溶液の体積と溶質の物質量との関係を表していることを理解し、質量パーセント濃度とモル濃度の違いを表現することができる。                                                                                                                                         | ○  | ○   |    |
| 10月       | 4 化学反応式                                                  | 簡単な化学反応式とイオン反応式が書けるようになる。化学反応式の係数比は、物質質量比(気体の場合には、さらに体積比)を表していることを理解し、化学反応式によって、反応物・生成物の質量・体積が求められることを理解する。            | 基本的な化学式、化学反応式を書く技能を習得し、的確に表現する。いろいろな物質の化学変化に注目し、化学変化の量的関係を物質量と関連づけて考察しようとするとともに、意欲的にそれらを探究しようとする。<br>【実験】化学反応における量的関係                                                                                    | ○  | ○   | ○  |
| 中間考査      |                                                          |                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                          |    |     |    |
| 10月       | 2節 酸と塩基<br>1 酸と塩基<br>2 酸と塩基の分類                           | 酸・塩基の定義を理解し、酸性・塩基性についても理解する。また、酸と塩基の価数と、酸と塩基の強弱とは、直接関係しないことを理解する。                                                      | 酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連づけて酸・塩基の反応を捉えることができる。酸・塩基の化学式や酸・塩基の反応を通して、酸と塩基の共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解できる。酸・塩基の価数・強弱の関係を理解し、電離度に関連付けて考察することができる。                                                                           | ○  |     |    |
| 11月       | 3 水素イオン濃度とpH                                             | 水素イオン濃度とpHとの関係を知り、pHの値で、水溶液の酸性・塩基性の程度がわかることを理解する。                                                                      | 酸性、塩基性の程度とpHの関係を理解し、pHの指標の便利さと実用性を理解している。                                                                                                                                                                | ○  |     |    |
|           | 4 中和反応と塩                                                 | 酸と塩基が反応するとたがいの性質を打ち消し、塩を生成することを理解し、また、塩の分類と塩の水溶液の液性を理解する。H <sup>+</sup> とOH <sup>-</sup> とが1:1で反応することを知り、中和滴定の計算を理解する。 | 中和反応における量的関係を理解している。中和滴定の実験により、メスフラスコ、ビュレット、ホールビペットなどの実験器具の取り扱いができると同時に、酸・塩基の量的関係から濃度未知の酸や塩基の濃度を実験で求める技能を習得している。                                                                                         | ○  | ○   | ○  |
| 期末考査      |                                                          |                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                          |    |     |    |
| 12月<br>1月 | 3節 酸化還元反応<br>1 酸化と還元                                     | 酸素、水素、電子の授受に基づく定義を理解する。とくに、酸化還元反応が電子の授受による反応であることを理解する。酸化数の求め方、酸化数の変化と酸化・還元の関係を理解する。                                   | 酸化・還元の定義を理解し、酸化と還元が同時に起こることを理解している。また、酸化数の定義を理解し、これらの定義を適用できる反応を見出すことができる。                                                                                                                               | ○  |     |    |
|           | 2 酸化剤と還元剤                                                | 酸化剤・還元剤の定義を知り、両者の反応が酸化還元反応であること理解する。                                                                                   | 酸化剤・還元剤について理解し、酸化反応・還元反応で起こるイオン反応式を書くことができる。また、イオン反応式から反応全体の化学反応式を導くことができる。酸化還元反応の量的関係を理解している。                                                                                                           | ○  | ○   |    |
| 2月        | 3 金属の酸化還元                                                | 金属の酸化されやすさの尺度であるイオン化傾向について学習し、個々の金属のイオン化傾向と反応性の関係を探る。                                                                  | 金属のイオン化傾向を、酸化還元反応と関連付けて理解している。                                                                                                                                                                           | ○  |     |    |
| 学年末考査     |                                                          |                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                          |    |     |    |
| 2, 3月     | 4 酸化還元反応の応用                                              | 日常生活や社会との関わりの例として、電池や金属の製錬を理解する。                                                                                       | 電池のしくみを、酸化還元の見点で理解することができる。ダニエル電池のしくみと電極での反応を理解することができる。鉄、銅、アルミニウムの製錬方法について、理解することができる。                                                                                                                  | ○  |     |    |

|          |                                                                                                                                                                                        |       |                       |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----------------------|
| 教科・科目    | 理科・生物基礎                                                                                                                                                                                | 使用教科書 | 数研出版 生物基礎 104 新編 生物基礎 |
| 単位数      | 2                                                                                                                                                                                      | 使用副教材 | 数研出版 新課程 生物基礎学習ノート    |
| 対象学年・学科  | 2 学年・農業科                                                                                                                                                                               |       |                       |
| 科目の概要と目標 | (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。<br>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。<br>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。 |       |                       |

| 実施時期  | 単元                                                                | 学習内容                                                                                                                                                                           | 到達度目標                                                                                                                                                                                                          | 知識 | 思判表 | 主体 |
|-------|-------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|----|
| 4月    | 第1章 生物の特徴<br>第1節 生物の多様性と共通性<br>第2節 エネルギーと代謝                       | (第1節)<br>・生物の種類と分類方法について。<br>・生物の種ごとの共通性と多様性について。<br>・生物の種と進化の関係性について。<br>(第2節)<br>・エネルギーと代謝について。<br>・光合成と呼吸の仕組みについて。<br>・酵素の特徴と代謝との関係性について。                                   | (第1節)<br>①すべての生物に共通する特徴を理解する。<br>②生物が共通する特徴をもつ理由を理解する。<br>(第2節)<br>①生命活動とエネルギーの関係について理解する。                                                                                                                     | ○  | ○   |    |
| 5月    |                                                                   |                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                | ○  | ○   |    |
| 中間考査  |                                                                   |                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                | ○  | ○   | ○  |
| 5月    | 第1章 生物の特徴<br>第3節 呼吸と光合成                                           | (第3節)<br>・光合成と呼吸の仕組みについて。<br>・酵素の特徴と代謝との関係性について。                                                                                                                               | (第3節)<br>①代謝の過程でATPが担う役割について理解する。<br>②代謝は、酵素の働きによって円滑に進むことを理解する。                                                                                                                                               | ○  | ○   |    |
| 6月    | 第2章 遺伝子とそのはたらき<br>第1節 遺伝子の本体とDNA<br>第2節 遺伝情報の複製と分配<br>第3節 遺伝情報の発現 | (第1節)<br>・遺伝物質と、DNAとの構造について。<br>(第2節)<br>・細胞分裂とDNAの分配、量の変化について。<br>・DNAの半保存的複製について。<br>(第3節)<br>・タンパク質の構造と機能について。<br>・転写と翻訳の仕組みについて。<br>・遺伝情報と突然変異について。<br>・遺伝子とゲノム、細胞の分化について。 | (第1節)<br>①DNAの構造の特徴を理解する。<br>(第2節)<br>①DNAは細胞分裂に伴って複製・分配され、からだを構成するすべての細胞は同じ遺伝情報をもつことを理解する。<br>(第3節)<br>①DNAの遺伝情報にもとづいてタンパク質がつくられる過程を理解する。<br>②ゲノム、染色体、遺伝子の関係をDNAにもとづいて理解する。<br>③細胞の分化は、特定の遺伝子の発現にもとづくことを理解する。 | ○  | ○   |    |
| 7月    |                                                                   |                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                | ○  | ○   | ○  |
| 期末考査  |                                                                   |                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                | ○  | ○   | ○  |
| 7月    | 第3章 ヒトの体内環境の維持<br>第1節 体内での情報伝達と調節                                 | (第1節)<br>・体内の恒常性と、自律神経系について。                                                                                                                                                   | (第1節)<br>①体内における情報の伝達とからだの調節の関係を理解する。                                                                                                                                                                          | ○  | ○   |    |
| 9月    | 第3章 ヒトの体内環境の維持<br>第2節 体内環境の維持のしくみ<br>第3節 免疫のはたらき                  | (第2節)<br>・血糖値の調節について。<br>・腎臓の役割について。<br>・血液凝固について。<br>(第3節)<br>・白血球の種類と役割について。<br>・自然免疫について。                                                                                   | (第2節)<br>①体内環境が維持されるしくみについて理解する。<br>(第3節)<br>①ヒトには、病原体からからだを守るしくみが備わっていることを理解する。<br>②自然免疫と獲得免疫のそれぞれのしくみについて理解する。<br>③自然免疫と獲得免疫の関わりについて理解する。<br>④免疫のしくみの異常に関わる疾患や医療について理解する。                                    | ○  | ○   | ○  |
| 10月   |                                                                   |                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                | ○  | ○   | ○  |
| 中間考査  |                                                                   |                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                | ○  | ○   | ○  |
| 10月   | 第3章 ヒトの体内環境の維持<br>第3節 免疫のはたらき                                     | (第3節)<br>・獲得免疫（細胞性免疫、体液性免疫）について。<br>・抗体産生と二次応答について。<br>・免疫と疾病、医療について。                                                                                                          | (第2節)<br>②自然免疫と獲得免疫のそれぞれのしくみについて理解する。<br>③自然免疫と獲得免疫の関わりについて理解する。<br>④免疫のしくみの異常に関わる疾患や医療について理解する。                                                                                                               | ○  | ○   | ○  |
| 11月   | 第4章 生物の多様性と生態系<br>第1節 植生と遷移                                       | (第1節)<br>・植生の特徴と分類について。<br>・森林の構造と光環境について。<br>・光合成速度と光補償点の関係について。<br>・遷移の仕組みについて。                                                                                              | (第1節)<br>①陸上には森林や草原など、さまざまな植生がみられることを理解する。<br>②植生は、周囲の環境と互いに関わりをもちながら、移り変わっていくことを理解する。                                                                                                                         | ○  | ○   |    |
| 12月   |                                                                   |                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                | ○  | ○   | ○  |
| 期末考査  |                                                                   |                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                | ○  | ○   | ○  |
| 12月   | 第4章 生物の多様性と生態系<br>第2節 植生の分布とバイオーム<br>第3節 生態系と生物の多様性               | (第2節)<br>・世界のバイオームの種類と特徴について。<br>・日本のバイオームの種類と特徴について。<br>・垂直分布、水平分布について。<br>(第3節)<br>・生態系の仕組みと構造について。<br>・生態系内の生物同士の関わりについて。                                                   | (第2節)<br>①地球上の多様な環境におけるバイオームの形成とその分布について理解する。<br>②バイオームは、気候と密接な関わりをもって形成されていることを理解する。<br>(第3節)<br>①生態系の成り立ちと生態系を構成する生物種の多様性について理解する。                                                                           | ○  | ○   | ○  |
| 1月    | 第4章 生物の多様性と生態系<br>第3節 生態系と生物の多様性<br>第4節 生態系のバランスと保全               | (第3節)<br>・生態系内の種内関係、種間関係について。<br>(第4節)<br>・生態系のバランスと安定性について。<br>・河川浄化とその仕組みについて。<br>・攪乱について。<br>・外来生物とその影響について。<br>・里山の維持について。<br>・絶滅危惧種について。<br>・生態系サービスとSDGsについて。            | (第3節)<br>②生態系における生物間の関係性や、それが生態系へ与える影響について理解する。<br>(第4節)<br>①生態系を構成する要素は、一定の範囲内で常に変動しつつ、生態系全体としてはバランスが保たれていることを理解する。<br>②生態系の保全の重要性を理解し、保全のために私たちができることを考える。                                                   | ○  | ○   |    |
| 2月    |                                                                   |                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                | ○  | ○   | ○  |
| 学年末考査 |                                                                   |                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                | ○  | ○   | ○  |
|       |                                                                   |                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                |    |     |    |

|          |                                                                                                                                   |       |                  |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------------------|
| 教科・科目    | 保健体育・保健                                                                                                                           | 使用教科書 | 現代高等保健体育（大修館）    |
| 単位数      | 1 単位                                                                                                                              | 使用副教材 | 現代高等保健体育ノート（大修館） |
| 対象学年・学科  | 1 年 普通科・農業科                                                                                                                       |       |                  |
| 科目の概要と目標 | 健康の考え方，現代の感染症とその予防，生活習慣病などの予防と回復，喫煙，飲酒，薬物乱用と健康，精神疾患の予防と回復について，「安全な社会生活」では，安全な社会づくり，応急手当について理解するとともに，課題を見つけ，その解決に向けて考え，表現できるようにする。 |       |                  |

| 実施時期  | 単元                                                 | 学習内容                                                                                                                      | 到達度目標                                                                                          | 知識 | 思判表 | 主体 |
|-------|----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|----|
| 4月    | ○現代社会と健康<br>・健康の考え方と成り立ち<br>・私たちの健康のすがた            | ・わが国の現在の健康水準や健康問題の変化，および今日の健康課題について学ぶ。健康の成立要因をふまえて，自分なりの健康の捉え方について考える。                                                    | ・健康の考え方について理解できる。<br>・わが国の健康水準の変化とその背景について理解できる。                                               | ○  |     | ○  |
| 5月    | ○現代社会と健康<br>・生活習慣病の予防と回復<br>・がんの原因と予防<br>・がんの治療と回復 | ・生活習慣病の種類とその要因について学ぶとともに，予防，早期発見，個人や社会の対策について考える。<br>・わが国の死因の第1位となっているがんについて，その種類，原因，予防，治療について学ぶとともに，社会的対策の現状と必要性について考える。 | ・生活習慣病の種類と要因について理解できる。                                                                         | ○  | ○   | ○  |
| 中間考査  |                                                    |                                                                                                                           |                                                                                                |    |     |    |
| 6月    | ○現代社会と健康<br>・運動と健康<br>・食事と健康<br>・休養・睡眠と健康          | ・運動，食事，休養・睡眠といった生活習慣が，生活習慣病の予防をはじめ，健康の保持増進に大きく関連していることを学ぶとともに，人々が適切なライフスタイルを身につけるための対策を考える。                               | ・健康と運動の関係について理解できる。<br>・食事と健康の関係について理解できる。<br>・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について理解できる。                   | ○  | ○   |    |
| 期末考査  |                                                    |                                                                                                                           |                                                                                                |    |     |    |
| 7月    | ○現代社会と健康<br>・喫煙と健康                                 | ・喫煙，が心身にもたらす健康問題と社会問題について学ぶとともに，それらの問題を改善するための，個人や社会の対策について考える。                                                           | ・喫煙者やその周囲の人に起こる害について理解できる。                                                                     | ○  |     | ○  |
| 9月    | ○現代社会と健康<br>・飲酒と健康<br>・薬物乱用と健康                     | ・飲酒，薬物乱用が心身にもたらす健康問題と社会問題について学ぶとともに，それらの問題を改善するための，個人や社会の対策について考える。                                                       | ・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響について理解できる。<br>・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について理解できる。                              | ○  | ○   | ○  |
| 10月   | ○現代社会と健康<br>・精神疾患の特徴<br>・精神疾患の予防<br>・精神疾患からの回復     | ・おもな精神疾患と要因，予防と治療，また精神保健の今日的課題について学ぶとともに，精神疾患の適切なケアのための社会環境について考える。                                                       | ・精神疾患の発病の要因とおもな症状について理解できる。<br>・精神疾患を予防する方法について理解できる。<br>・精神疾患の治療について理解できる。                    |    | ○   | ○  |
| 中間考査  |                                                    |                                                                                                                           |                                                                                                |    |     |    |
| 11月   | ○現代社会と健康<br>・現代の感染症<br>・感染症の予防<br>・性感染症・エイズとその予防   | ・新興感染症や再興感染症といった現代の感染症の現状と今日的課題，予防対策について学ぶ。また性感染症・エイズの実態と課題について，日本および世界の現状を学ぶ。また感染症予防について，個人や社会の対策について考える。                | ・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて理解できる。<br>・感染症の予防対策の3原則について理解できる。<br>・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について理解できる。 | ○  | ○   |    |
| 期末考査  |                                                    |                                                                                                                           |                                                                                                |    |     |    |
| 12月   | ○現代社会と健康<br>・健康に関する意思決定・行動選択<br>・健康に関する環境づくり       | ・健康の保持増進のための意思決定・行動選択の重要性と影響する要因について学び，よりよい意思決定・行動選択の方法や工夫の仕方について学ぶ。また健康づくりには，ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりが重要であることを学ぶ。        | ・意思決定・行動選択に影響を与える要因について理解できる。<br>・社会環境の健康への影響について理解できる。                                        | ○  | ○   |    |
| 1月    | ○安全な社会生活<br>・事故の現状と発生要因<br>・安全な社会の形成<br>・交通における安全  | ・わが国の不慮の事故の実態と事故発生に関連する要因について学ぶとともに，安全な社会を形成するための個人や社会の対策について考える。また，交通事故の防止の観点から，運転者の責任，個人や社会の対策等について考える。                 | ・事故の実態と被害の実態について理解できる。<br>・安全のために必要な個人の行動について理解できる。<br>・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について理解できる。    | ○  | ○   | ○  |
| 2月    | ○安全な社会生活<br>・応急手当の意義とその基本<br>・日常的な応急手当<br>・心肺蘇生法   | ・けがや急病に対する応急手当の意義や方法について学び，日常的な応急手当ができるようにする。また，心肺停止状態の人の命を救うために行う心肺蘇生法の意義と方法を学び，実習を通して正しく実施できるようにする。                     | ・応急手当の意義について理解できる。<br>・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について理解できる。<br>・心肺蘇生法の方法と手順について理解できる。               | ○  |     | ○  |
| 学年末考査 |                                                    |                                                                                                                           |                                                                                                |    |     |    |

年間指導・評価計画

富山県立入善高等学校

|          |                                                                                                                                                       |       |                  |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------------------|
| 教科・科目    | 保健体育・保健                                                                                                                                               | 使用教科書 | 現代高等保健体育（大修館）    |
| 単位数      | 1 単位                                                                                                                                                  | 使用副教材 | 現代高等保健体育ノート（大修館） |
| 対象学年・学科  | 2 年 普通科・農業科                                                                                                                                           |       |                  |
| 科目の概要と目標 | 生涯の各段階における健康，労働と健康について，「健康を支える環境づくり」では，環境と健康，食品と健康，保健・医療サービスおよび医薬品の制度とその活用，さまざまな保健活動や社会的対策，健康に関する環境づくりと社会参加について理解するとともに，課題を見つけ，その解決に向けて考え，表現できるようにする。 |       |                  |

| 実施時期  | 単元                                                       | 学習内容                                                                                                                | 到達度目標                                                                                 | 知識 | 思判表 | 主体 |
|-------|----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|----|
| 4月    | ○生涯を通じる健康<br>・ライフステージと健康<br>・思春期と健康<br>・性意識と性行動の選択       | ・各ライフステージの健康課題と社会からの支援について学ぶ。<br>・思春期における体と心の変化，思春期に起こりやすい健康問題について理解を深める。また，性意識やその男女差を知り，適切な意思決定・行動選択について考える。       | ・ライフステージと健康の関連について理解できる。<br>・思春期における体の変化について理解できる。<br>・性意識の男女差について理解できる。              | ○  | ○   | ○  |
| 5月    | ○生涯を通じる健康<br>・妊娠出産と健康<br>・避妊法と人工妊娠中絶                     | ・妊娠・出産に伴う健康問題について学び，健康的な妊娠・出産をするための対策と母子保健サービスの活用について考える。また，望まない妊娠の問題点を考えるとともに，適切な避妊法について学ぶ。                        | ・妊娠・出産の過程における健康問題について理解できる。<br>・家族計画の意義と適切な避妊法について理解できる。                              | ○  | ○   |    |
| 中間考査  |                                                          |                                                                                                                     |                                                                                       |    |     |    |
| 6月    | ○生涯を通じる健康<br>・結婚生活と健康<br>・中高年期と健康                        | ・結婚生活を健康に過ごすための条件について学び，とともに，健康な結婚生活に必要な考え方や行動について考える。<br>・加齢による中高年の健康リスクを低下させるための対策について学び，高齢社会に必要な社会の取り組みについて考える。  | ・心身の発達と結婚生活の関係について理解できる。<br>・加齢にともなう心身の変化について理解できる。                                   | ○  | ○   |    |
| 期末考査  |                                                          |                                                                                                                     |                                                                                       |    |     |    |
| 7月    | ○生涯を通じる健康<br>・働くこと健康<br>・労働災害と健康<br>・健康的な職業生活            | ・働くことの意義や働くことによって起こる健康問題について理解を深める。また労働が原因で起こるけがや病気を防止するための対策について学び，健康的な職業生活を送る上での取り組みや余暇の活用の仕方を考える。                | ・働くことの意義と健康のかかわりについて理解できる。<br>・労働災害の種類とその原因について理解できる。<br>・職場がおこなう健康に関する取り組みについて理解できる。 | ○  |     | ○  |
| 9月    | ○健康を支える環境づくり<br>・大気汚染と健康<br>・水質汚染、土壌汚染と健康                | ・大気汚染，水質汚濁，土壌汚染の健康への影響について学び，地球規模で起こっている環境問題について，人々の健康と関連づけて考える。                                                    | ・大気汚染の原因と健康への影響について理解できる。<br>・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響について理解できる。                           | ○  | ○   | ○  |
| 10月   | ○健康を支える環境づくり<br>・環境と健康にかかわる対策<br>・ごみの処理と上下水道の整備          | 環境汚染による健康被害を防ぐためのしくみについて学び，自分たちにできる環境対策について考える。また，ごみ処理，上下水道整備，し尿処理といった環境衛生活動の重要性と現状について学ぶ。                          | ・環境汚染による健康被害を防ぐ方法について理解できる。<br>・ごみの処理の現状やその課題について理解できる。                               |    | ○   | ○  |
| 中間考査  |                                                          |                                                                                                                     |                                                                                       |    |     |    |
| 11月   | ○健康を支える環境づくり<br>・食品の安全性<br>・食品衛生にかかわる活動                  | ・食品の安全に関する今日的課題と，食品の安全性を確保するしくみについて学び，ともに，食の安全を守るために人々に求められる役割を考える。                                                 | ・食品の安全性と健康のかかわりについて理解できる。<br>・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について理解できる。                       | ○  | ○   |    |
| 期末考査  |                                                          |                                                                                                                     |                                                                                       |    |     |    |
| 12～1月 | ○安全な社会生活<br>・保健サービスとその活用<br>・医療サービスとその活用<br>・医薬品の制度とその活用 | ・わが国における保健・医療制度とさまざまな保健・医療サービスについて学び，ともに，有効な活用の仕方を考える。<br>・医薬品の種類と正しい使い方，および医薬品の安全性を守る取り組みについて学び，ともに，有効な使用法について考える。 | ・保健行政の役割について理解できる。<br>・わが国における医療保険のしくみについて理解できる。<br>・医薬品の正しい使用法について理解できる。             | ○  | ○   | ○  |
| 2月    | ○安全な社会生活<br>・さまざまな保健活動や社会的対策<br>・健康に関する環境づくりと社会参加        | ・国内では人々の健康づくりのために自治体や行政機関による対策が行われており，さらに国の枠を超えた保健活動や対策がとられていることを学ぶ。また，ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりや社会参加について考える。        | ・国際機関・民間機関などの保健活動について理解できる。<br>・健康の保持増進のための環境づくりについて理解できる。                            | ○  |     | ○  |
| 学年末考査 |                                                          |                                                                                                                     |                                                                                       |    |     |    |

|          |                                                                                                                     |       |    |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|----|
| 教科・科目    | 保健体育・体育                                                                                                             | 使用教科書 | なし |
| 単位数      | 3単位                                                                                                                 | 使用副教材 | なし |
| 対象学年・学科  | 1年 普通科・農業科                                                                                                          |       |    |
| 科目の概要と目標 | 各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。 |       |    |

| 実施時期   | 単元           | 学習内容                            | 到達度目標                                                                                                              | 知識 | 思判表 | 主体 |
|--------|--------------|---------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|----|
| 4月     | ○体づくり運動      | ・体ほぐしの運動<br>・体力を高める運動           | ・体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしている。                                                |    |     | ○  |
| 5月     | ○陸上競技（種目内選択） | ・競走、跳躍、投擲                       | ・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方などを身につけることができる。<br>・自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしている。                | ○  |     | ○  |
| 中間考査   |              |                                 |                                                                                                                    |    |     |    |
| 6月     | ○領域選択①       | ・ソフトテニス<br>・ソフトボール<br>・バスケットボール | ・自己の役割を理解し、相手の動きや打球に対応した作戦を立て、ゲームを行うことができる。<br>・安定したボール操作や連携した動きによって攻防が展開できるようになる。                                 | ○  | ○   |    |
| 期末考査   |              |                                 |                                                                                                                    |    |     |    |
| 7月     | ○体育理論        | ・スポーツの発祥と発展                     | ・スポーツの歴史や理念の変遷について理解することができる。<br>・スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展について主体的に学習に取り組もうとしている。                                       | ○  |     | ○  |
| 9月・10月 | ○領域選択②       | ・サッカー<br>・バレーボール<br>・卓球         | ・自己の役割を理解し、相手の動きや打球に対応した作戦を立て、ゲームを行うことができる。<br>・安定したボール操作や連携した動きによって攻防が展開できるようになる。                                 | ○  | ○   |    |
| 中間考査   |              |                                 |                                                                                                                    |    |     |    |
| 11月    | ○領域選択③       | ・バレーボール<br>・武道<br>・ダンス          | ・安定したボール操作や連携した動きによって攻防が展開できるようになる。<br>・武道に関する伝統的な考え方を理解し、礼儀作法を身につけ練習や試合ができる。<br>・リズムカルな身体運動を通じて、表現する楽しさを味わうことができる |    | ○   | ○  |
| 期末考査   |              |                                 |                                                                                                                    |    |     |    |
| 12月    | ○体育理論        | ・スポーツの発祥と発展                     | ・現代のスポーツの役割や経済的な効果、文化的な価値を理解することができる。<br>・スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展について主体的に学習に取り組もうとしている。                               | ○  |     | ○  |
| 1月・2月  | ○領域選択④       | ・バスケットボール<br>・バドミントン<br>・卓球     | ・自己の役割を理解し、相手の動きや打球に対応した作戦を立て、ゲームを行うことができる。<br>・安定したボール操作や連携した動きによって攻防が展開できるようになる。                                 | ○  | ○   |    |
| 学年末考査  |              |                                 |                                                                                                                    |    |     |    |

# 年間指導・評価計画

富山県立入善高等学校

|          |                                                                                                                     |       |    |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|----|
| 教科・科目    | 保健体育・体育                                                                                                             | 使用教科書 | なし |
| 単位数      | 2単位                                                                                                                 | 使用副教材 | なし |
| 対象学年・学科  | 2年 普通科・農業科                                                                                                          |       |    |
| 科目の概要と目標 | 各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。 |       |    |

| 実施時期      | 単元           | 学習内容                                  | 到達度目標                                                                                                            | 知識 | 思判表 | 主体 |
|-----------|--------------|---------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|----|
| 4月        | ○体づくり運動      | ・体ほぐしの運動<br>・体力を高める運動                 | ・体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしている。                                                  |    |     | ○  |
| 5月        | ○陸上競技（種目内選択） | ・競走、跳躍、投擲                             | ・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方などを身に着けることができる。<br>・自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしている。              | ○  |     | ○  |
| 中間考査      |              |                                       |                                                                                                                  |    |     |    |
| 6月        | ○領域選択①       | ・サッカー<br>・ソフトボール<br>・ソフトテニス<br>・ダンス   | ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、作戦に応じた技能で仲間と連携してゲームを展開できる。<br>・感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わうことができる。              | ○  | ○   |    |
| 期末考査      |              |                                       |                                                                                                                  |    |     |    |
| 7月        | ○体育理論        | ・豊かなスポーツライフの設計の仕方                     | ・豊かなスポーツライフ設計の仕方について理解できる。<br>・豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断することができる。                              | ○  | ○   |    |
| 9・10月前半   | ○領域選択②       | ・ソフトボール<br>・バレーボール<br>・バドミントン<br>・武道  | ・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫したり、パートナーと連携して攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。<br>・基本技能を高める中で得意技を身に付け、それを用いての攻防ができるようになる。       | ○  |     | ○  |
| 中間考査      |              |                                       |                                                                                                                  |    |     |    |
| 10月後半～11月 | ○領域選択③       | ・サッカー<br>・バスケットボール<br>・ソフトテニス<br>・ダンス | ・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫したり、パートナーと連携して攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。<br>・全身を使って自由に踊ることを課題として、仲間とともにダンスの楽しさを味わうことができる。 |    | ○   | ○  |
| 期末考査      |              |                                       |                                                                                                                  |    |     |    |
| 12月       | ○体育理論        | ・豊かなスポーツライフの設計の仕方                     | ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できる。<br>・豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組むことができる。                                          | ○  |     | ○  |
| 1～2月      | ○領域選択④       | ・バスケットボール<br>・バドミントン<br>・卓球<br>・ダンス   | ・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫したり、パートナーと連携して攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。<br>・全身を使って自由に踊ることを課題として、仲間とともにダンスの楽しさを味わうことができる。 | ○  | ○   |    |
| 学年末考査     |              |                                       |                                                                                                                  |    |     |    |

# 年間指導・評価計画

富山県立入善高等学校

|          |                                                                                                                     |       |    |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|----|
| 教科・科目    | 保健体育・体育                                                                                                             | 使用教科書 | なし |
| 単位数      | 2単位                                                                                                                 | 使用副教材 | なし |
| 対象学年・学科  | 3年 普通科・農業科                                                                                                          |       |    |
| 科目の概要と目標 | 各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。 |       |    |

| 実施時期      | 単元           | 学習内容                                  | 到達度目標                                                                                                            | 知識 | 思判表 | 主体 |
|-----------|--------------|---------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|----|
| 4月        | ○体づくり運動      | ・体ほぐしの運動<br>・体力を高める運動                 | ・体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしている。<br>・話し合いに貢献しようとしたり、健康・安全を確保しようとしている。         |    |     | ○  |
| 5月        | ○陸上競技（種目内選択） | ・競走、跳躍、投擲                             | ・自己の課題を設定し、その解決方法を発見し、合理的な解決ができるような計画を立てて、記録を高めることができる。                                                          | ○  |     | ○  |
| 中間考査      |              |                                       |                                                                                                                  |    |     |    |
| 6月        | ○領域選択①       | ・サッカー<br>・ソフトボール<br>・ソフトテニス<br>・ダンス   | ・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫したり、パートナーと連携して攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。<br>・全身を使って自由に踊ることを課題として、仲間とともにダンスの楽しさを味わうことができる。 | ○  | ○   |    |
| 期末考査      |              |                                       |                                                                                                                  |    |     |    |
| 7月        | ○体育理論        | ・豊かなスポーツライフの設計の仕方                     | ・豊かなスポーツライフ設計の仕方について理解できる。<br>・豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断することができる。                              | ○  | ○   |    |
| 9・10月前半   | ○領域選択②       | ・ソフトボール<br>・バレーボール<br>・バドミントン<br>・武道  | ・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫したり、パートナーと連携して攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。<br>・基本技能を高める中で得意技を身に付け、それを用いての攻防ができるようになる。       | ○  |     | ○  |
| 中間考査      |              |                                       |                                                                                                                  |    |     |    |
| 10月後半～11月 | ○領域選択③       | ・サッカー<br>・バスケットボール<br>・ソフトテニス<br>・ダンス | ・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫したり、パートナーと連携して攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。<br>・全身を使って自由に踊ることを課題として、仲間とともにダンスの楽しさを味わうことができる。 |    | ○   | ○  |
| 期末考査      |              |                                       |                                                                                                                  |    |     |    |
| 12月       | ○体育理論        | ・豊かなスポーツライフの設計の仕方                     | ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できる。<br>・豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組むことができる。                                          | ○  |     | ○  |
| 1～2月      | ○領域選択④       | ・バスケットボール<br>・バドミントン<br>・卓球<br>・ダンス   | ・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫したり、パートナーと連携して攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。<br>・全身を使って自由に踊ることを課題として、仲間とともにダンスの楽しさを味わうことができる。 | ○  | ○   |    |
| 学年末考査     |              |                                       |                                                                                                                  |    |     |    |

|          |                                                                       |       |                |
|----------|-----------------------------------------------------------------------|-------|----------------|
| 教科・科目    | 芸術・音楽Ⅰ                                                                | 使用教科書 | 高校生の音楽1（教育芸術社） |
| 単位数      | 2単位                                                                   | 使用副教材 |                |
| 対象学年・学科  | 1年 普通科・1～4組<br>農業科・5組                                                 |       |                |
| 科目の概要と目標 | 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。 |       |                |

| 実施時期 | 単元                                           | 学習内容                                                                                | 到達度目標                                                                                                                                                                                                                   | 知識 | 思判表 | 主体 |
|------|----------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|----|
| 1 学期 | 正しい発声を身に付けて、豊かな響きで歌おう                        | 歌うときの基本的な姿勢や呼吸、発声を身に付け、自己のイメージをもって歌詞の内容を理解し、曲にふさわしい発声で表現を工夫して歌う                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌うときの姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方に注意して歌唱することができる</li> <li>・歌詞の内容を捉え、曲想との関わりを理解できる</li> <li>・曲のもつ雰囲気や味わいを理解して歌唱することができる</li> <li>・旋律の特徴や言葉の抑揚を理解して、イメージに合った表現を工夫することができる</li> </ul>           | ○  |     | ○  |
|      | 音色を工夫したり、リズムパターンを変化させたりしてリズム合奏を楽しもう          | 手拍子やボディーパーカッション、唱歌、打楽器などを用いて、音色を工夫したりリズムパターンを即興で変化させたりしてリズム合奏の表現を創意工夫して演奏する         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・提示されたリズムパターンを表現することができる</li> <li>・手拍子やボディーパーカッション、唱歌、打楽器などを組み合わせ、リズムパターンを生き生きと演奏することができる</li> <li>・反復、変化、対照などの手法を活用して、リズムパターンを変化させて演奏することができる</li> </ul>                        | ○  |     | ○  |
|      | これは音楽だといえるだろうか？音楽って何だろう？                     | 身の回りのさまざまな音を聴いて「音楽とは何か」を考え、ジョン・ケージの《4分33秒》などを例にさまざまな音楽のあり方に気付く                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの音、音楽や多様な音楽について、先入観なくその音楽の特質を聴取できる</li> <li>・自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、多様な音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができる</li> <li>・さまざまな音や音楽を通して、音楽について再考する鑑賞の学習活動に主体的・協働的に取り組むことができる</li> </ul>   |    | ○   |    |
|      | 日本語の響きや歌詞の内容、曲の背景を理解して、ふさわしい歌声で表現しよう         | 日本語を美しく歌うため、鼻濁音やs音、t音などの子音に注意して歌唱する。また、歌詞の内容や曲の背景を理解して、情景を思い描いて詩情に合った歌唱表現を工夫する      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・鼻濁音やs音、t音などの子音に注意し、日本語の美しい発音に留意して歌うことができる</li> <li>・歌詞の内容を理解し、作曲者の表現指示をもとに、ふさわしい表現を工夫することができる</li> </ul>                                                                        | ○  | ○   |    |
|      | 物語と音楽との関わりを理解し、《魔法使いの弟子》で作曲者が工夫したことを探求しよう    | 作品に影響を与えたゲーテの詩『魔法使いの弟子』を読み、情景を思い浮かべながら曲を鑑賞し、登場する人や物、物語のシーンがどのように音楽で表現されているかについて考察する | <ul style="list-style-type: none"> <li>・『魔法使いの弟子』の情景を思い浮かべながら曲を鑑賞することができる</li> <li>・水、ほうき、弟子、呪文の旋律をそれぞれ知覚し、それらの相互関係によって音楽の構造がつくられていることを理解できる</li> <li>・登場する人や物、物語のシーンがどのように音楽で表現されているかについて主体的・協働的に話し合うことができる</li> </ul> |    | ○   | ○  |
| 2 学期 | イタリア語の発音の特徴を捉え、曲の雰囲気を楽しみながら歌おう               | イタリア語の発音の特徴を捉え、リズムや旋律との関わりを理解し、歌詞の内容と曲の雰囲気に合った表現を工夫して歌う                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・イタリア語の発音の特徴を理解できる</li> <li>・イタリア語のアクセントやリズムや旋律との関わりを理解し、ふさわしい発声、言葉の発音、身体の使用などの技能を身に付けている</li> <li>・歌詞の内容を理解し、自己のイメージをもって表現を工夫して歌唱で表現することができる</li> </ul>                         | ○  |     | ○  |
|      | ギターの様々な奏法を学び、曲の雰囲気に合った表現を工夫しよう               | 《Happy Birthday》で用いられているコードをギターで弾き、ギターアンサンブルや弾き語りで、個性豊かな器楽表現を創意工夫する                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ギターのG、C、D7のコードのポジションを覚えている</li> <li>・様々な奏法を学び、ベースラインとメロディーを弾くことができる</li> <li>・弾き語りで個性豊かな表現を創意工夫している</li> <li>・楽しみながら、ギターアンサンブルや弾き語りの表現に主体的に取り組むことができる</li> </ul>                | ○  |     | ○  |
|      | 《六段の調》の唱歌をよく聴いて覚え、争の演奏に生かそう                  | 縦譜の読み方や箏の構造、奏法を学び、《六段の調》の唱歌を歌うことで旋律の動きや余韻の変化、間などを理解し、箏の特徴を生かして演奏する                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・縦譜の読み方や箏の構造、奏法を理解できる</li> <li>・《六段の調》の唱歌を聴いて、旋律の動きを理解できる</li> <li>・余韻の変化や間を理解し、知覚したことで感受したこととの関わりについて考え、どのように《六段の調》を演奏するかについて創意工夫している</li> </ul>                                |    | ○   |    |
|      | ベートーヴェンの交響曲第9番第4楽章を聴いて、この曲に込められた作曲者の思いを話し合おう | ベートーヴェンの交響曲第9番第4楽章の曲の構成やシラーによる歌詞の内容を理解して、音楽に込められた作曲者の思いについて話し合い、考えを深める              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲の構成や歌詞の内容を理解できる</li> <li>・オーケストラ、独唱、四重唱、合唱を伴った壮大な音楽の世界を味わうことができる</li> <li>・自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている</li> </ul>                                           |    | ○   | ○  |
|      | 変奏や編曲に挑戦して、つくった作品を発表しよう                      | 変奏や編曲について理解するとともに、《きらきら星》の旋律を創意工夫して器楽アンサンブルに編曲し、創作や器楽合奏に親しむ                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージをもって《きらきら星》の旋律を変奏できる</li> <li>・つくった《きらきら星》の変奏曲を器楽アンサンブルに編曲することができる</li> <li>・創作表現の学習活動に主体的・協働的に取り組み、完成した作品をグループごとに発表することができる</li> </ul>                                     | ○  | ○   |    |
| 3 学期 | 歌詞に込められた主張を受け止めて歌おう                          | ポピュラー音楽のジャンルや歌詞に込められたアーティストの主張を理解して、歌い方や表現を工夫するとともに、芸術活動を支える著作権についての理解を深める          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポピュラー音楽のジャンルを理解できる</li> <li>・英語歌詞の内容についてその背景を含めて理解できる</li> <li>・歌詞の内容にふさわしい表現を考えて演奏することができる</li> <li>・芸術活動を支える著作権について理解できる</li> </ul>                                           | ○  | ○   |    |
|      | 歌舞伎《京鹿子娘道成寺》を鑑賞したり、長唄を唄ったりして、歌舞伎音楽の特徴を感じ取ろう  | 杵屋弥三郎が作曲した《京鹿子娘道成寺》の長唄を唄ったり、三味線を聴いたりすることで歌舞伎に親しむとともに、歌舞伎音楽のよさや美しさを深く味わう             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎《京鹿子娘道成寺》のあらすじを理解できる</li> <li>・長唄の特徴を知り、模倣しながら唄うことができる</li> <li>・長唄三味線の演奏を聴いて三味線の特徴や合方の役割について理解し、歌舞伎音楽のよさや美しさを味わうことができる</li> </ul>                                           |    | ○   | ○  |
|      | 各パートの役割を理解して、アンサンブル演奏を楽しもう                   | 各パートの役割やリズム、旋律の特徴を理解して、表現上の効果を生かしてアンサンブル演奏を楽しむ                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノパートの弾き方やギターのタブ譜の読み方を理解できる</li> <li>・主体的に練習に取り組み、アンサンブル活動を楽しむことができる</li> <li>・各パートをよく聴き合い、音量バランスを考えながらアンサンブル演奏をすることができる</li> </ul>                                            | ○  |     | ○  |

年間指導・評価計画

富山県立入善高等学校

|          |                                                                               |       |           |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------|-------|-----------|
| 教科・科目    | 芸術・美術Ⅰ                                                                        | 使用教科書 | 美術1（光村図書） |
| 単位数      | 2単位                                                                           | 使用副教材 |           |
| 対象学年・学科  | 1年 普通科・1～4組<br>1年 農業科・5組                                                      |       |           |
| 科目の概要と目標 | 美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。 |       |           |

| 実施時期  | 題材                                | 学習内容                                                                                                                                                                                             | 到達目標                                                                                                                                                                                                             | 知識 | 思判表 | 主体 |
|-------|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|----|
| 4月    | 美術Ⅰ<br>オリエンテーション                  | ・美術Ⅰの意義について考える。<br>・1年間の題材案紹介<br>・美術の体操（4コマ漫画作成・鑑賞）                                                                                                                                              | ・高校美術Ⅰの意義や学習内容について知り、展望を持つ。<br>・発想を広げる活動に主体的に取り組んでいる。                                                                                                                                                            | ○  | ○   | ○  |
| 5月    | 教科書作品模写                           | ・教科書作品鑑賞・マイベスト5決定<br>・教科書作品模写<br>・模写作品を鑑賞し合い、作者の意図や心情について考える。                                                                                                                                    | ・自分の好きな教科書作品を選び、その構図や配色を正確に模写することで、作家の作品世界への理解を深める。<br>・模写を通して発見した作品のよさや美しさ、作者の心情や意図、工夫を言葉にし、的確に伝えようとしている。                                                                                                       | ○  | ○   | ○  |
| 6月前半  | 日本人現代アート作家鑑賞①<br>村上隆              | ・村上隆の経歴と作品紹介<br>・村上隆関連動画の視聴<br>・村上隆についての自分の考えをまとめる。                                                                                                                                              | ・日本人現代アート作家の鑑賞活動を通して、現代社会とアートの多様な展開や関わりを知り、その発想や表現性の面白さへの関心を高めている。                                                                                                                                               | ○  | ○   |    |
| 6月後半  | エッチング（銅版画）<br>学校中庭の植物と夢・空想・不思議の世界 | ・夢・不思議・空想の世界を描いた画家たち（北方ルネサンスやシュールレアリスム、水木しげる他）の鑑賞<br>・エッチングの特徴、線と点の表現について知る。<br>・学校中庭の植物スケッチ<br>・アイデアスケッチ制作（図書室）<br>様々なブレインストーミング<br>アイデア3つ以上<br>・アイデアスケッチ鑑賞（KJ法）<br>意図や工夫を感じ取り、自分のアイデアスケッチを見直す。 | ・北方ルネサンスやシュールレアリスム等の作品鑑賞を通して、夢や空想といったテーマの身近さや意義について理解を深める。<br>・学校中庭の植物を手がかりに、自分の夢や空想の世界を組み合わせることで主題を生成し、独創的な表現の構想を練っている。<br>・エッチングの特性を生かした線・点の表現を工夫し、主体的にアイデアスケッチに取り組んでいる。<br>・友達や意図や工夫を感じ取り、自分のアイデアスケッチを見直している。 | ○  | ○   | ○  |
| 7月    |                                   | 同上                                                                                                                                                                                               | ・同上                                                                                                                                                                                                              |    |     |    |
| 9月前半  |                                   | ・線・点の表現を工夫して銅板をニードルで彫る<br>・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。                                                                                                                                           | ・意図に応じて銅板やニードル等の用具の特性を生かすとともに、形や線、構図などの表現を工夫し、主題を追求して創造的に表している。<br>・自己を見つめ感じ取ったことや考えたことなどをもとにした表現の創造活動に主体的に取り組んでいる。                                                                                              |    |     |    |
| 9月下旬  | 日本人現代アート作家鑑賞②<br>スプラッツニ子!         | ・スプラッツニ子!の経歴と作品紹介<br>・スプラッツニ子!関連動画の視聴<br>・スプラッツニ子!についての自分の考えをまとめる。                                                                                                                               | ・日本人現代アート作家の鑑賞活動を通して、現代社会とアートの多様な展開や関わりを知り、その発想や表現性の面白さへの関心を高めている。                                                                                                                                               | ○  | ○   |    |
| 10月   | ピンホールカメラで撮影しよう【グループ制作】            | ・ピンホールカメラを制作する。<br>・様々な写真作品の鑑賞<br>・ピンホールカメラの特性を踏まえ主題を生成する。<br>・主題をもとに、構図や光などの構想を練り、撮影する。<br>・現像処理を行い、写真ネガ作品を仕上げる。<br>・構図や光などの構想を練り、撮影する。<br>・現像処理を行い、写真ネガ作品を仕上げる。<br>・完成作品を鑑賞し合う。                | ・ピンホールカメラの制作・撮影を通じて、カメラの構造や写真の原理（シャッタースピードや絞り値など）を体験的に理解を深めている。<br>・自作ピンホールカメラの特性を把握し、主題に合わせて主体的に撮影・現像に取り組むことで、独自の写真作品を作り上げている。                                                                                  | ○  | ○   | ○  |
| 11月前半 | 色彩について                            | ・「見る」ことについて<br>・色の3原色について<br>・加法混色・減法混色について<br>・錯視・色彩心理について<br>・配色について<br>[演習]<br>①12色相環 ②明度・彩度対比 ③マンダラ                                                                                          | ・視覚の原理、色彩心理、錯視など、普段何気なく行っている「見る」ことの特性や生活への影響について知る。<br>・色彩・配色の効果と身の回りのデザインとの関係について理解を深めている。<br>・色彩演習に主体的に取り組む、色作りの知識と技術を高めている。                                                                                   | ○  | ○   |    |
| 11月後半 | オリジナル<br>CDジャケットデザイン              | ・デザインとは何か<br>・好きなアーティストの歌詞や曲調をもとに構図や配色・画材などの構想を練る。<br>ブレインストーミング<br>アイデアスケッチ3つ以上                                                                                                                 | ・歌詞や曲調などから主題を生成し、構図や配色の効果やCDジャケットの表・裏面の関係性などを工夫し、印象に残るデザイン表現の構想を練っている。                                                                                                                                           | ○  | ○   | ○  |
| 12月   |                                   | ・アイデアスケッチをもとに、画材や表現方法を工夫して制作する。<br>・完成作品を鑑賞し合い、デザインの意図や工夫を感じ取り、話し合う。                                                                                                                             | ・形や配色、画材などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、CDジャケットデザインを、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。<br>・意図に応じて画材や用具の特性を生かすとともに、表現方法などを工夫し、目的や計画をもとに創造的に表している。                                                                             | ○  | ○   | ○  |
| 1月前半  |                                   |                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                  |    |     |    |
| 1月下旬  | 日本人現代アート作家鑑賞③<br>奈良美智             | ・奈良美智の経歴と作品紹介<br>・奈良美智関連動画の視聴<br>・奈良美智についての自分の考えをまとめる。                                                                                                                                           | ・日本人現代アート作家の鑑賞活動を通して、現代社会とアートの多様な展開や関わりを知り、その発想や表現性の面白さへの関心を高めている。                                                                                                                                               | ○  | ○   |    |
| 1月後半  | 自己を表す（油彩）                         | ・油彩画で自己を表すことに関心を持ち、自分を見つめ感じ取ったことから主題を生成する。<br>ブレインストーミング<br>・主題をもとに、表現方法、用具の使い方などの構想を練る。<br>アイデアスケッチ3つ以上                                                                                         | ・自己を見つめ、感じ取ったことや考えたことから主題を生成し、単純化や省略、強調、材料の質感を生かした創造的な表現の構想を練っている。<br>・意図に応じて油彩の画材や用具・技法を選択し、その特性を生かすとともに、表現の形態や方法を工夫し、主題を追求して創造的に表している。                                                                         | ○  | ○   | ○  |
| 2月    |                                   | ・形や色、画材などを工夫し、油彩の用具の特性を生かして制作する。<br>・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。                                                                                                                                 | ・主体的に自己をあらわした絵画の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の意図や作品に込められた思いなどについて考える鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。                                                                                                                                     |    |     |    |
| 3月    |                                   |                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                  |    |     |    |

年間指導・評価計画

富山県立入善高等学校

|          |                                                                                                                                               |       |                               |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------------------------------|
| 教科・科目    | 芸術・書道Ⅰ                                                                                                                                        | 使用教科書 | 書Ⅰ（教育図書）<br>書Ⅰプライマリーブック（教育図書） |
| 単位数      | 2単位                                                                                                                                           | 使用副教材 |                               |
| 対象学年・学科  | 1年普通科・1～4組<br>1年農業科・5組                                                                                                                        |       |                               |
| 科目の概要と目標 | ・書の表現の方法・形式・多様性を理解し、書写能力の向上を図り、伝統に基づいた表現の技能を身につける。<br>・伝統・文化を通して書の美を感じ、価値を考え、意図に基づいた表現が工夫できる。<br>・主体的な活動を通して、生涯にわたり書を愛好し、心豊かな生活・社会を創造する態度を養う。 |       |                               |

| 実施時期 | 単元                | 学習内容                                                | 到達度目標                                                    | 知識 | 思判表 | 主体 |
|------|-------------------|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|----|-----|----|
| 4月   | 書へのいざない           | ・文房四宝に対する理解                                         | ・書写と書道の違いや目指すところを理解する。<br>・用具の使用法、手入れの方法を知り実践できる。        | ○  | ○   | ○  |
| 5月   | 漢字の書「楷書の古典を学ぶ」    | ・楷書の特徴を理解し、鑑賞や臨書通して各古典の美を感じ、表現できるようになる。             | ・筆記具の持ち方、姿勢を身につける。<br>・書の歴史・伝統、特に書体の変遷を理解し、古典を学ぶ意義を理解する。 | ○  | ○   | ○  |
|      |                   | ①「造像記」<br>②「論経書詩」                                   | ・筆の弾力、毛のねじれ、毛先の開閉などの特性を生かし、意図に応じた表現を工夫し、表現できるようになる。      | ○  | ○   | ○  |
| 6月   |                   | ③「孔子廟堂碑」<br>④「九成宮醴泉銘」<br>⑤「雁塔聖教序」                   | ・古典の鑑賞を通じてそれぞれが持つ美の要素、書風などの特徴が感じ取れるようになる。                | ○  | ○   | ○  |
| 7月   |                   | ⑥「顔氏家廟碑」                                            |                                                          | ○  | ○   | ○  |
| 9月   |                   | ⑦「偶寺心経」                                             |                                                          | ○  | ○   | ○  |
|      | 漢字の書「行書の古典を学ぶ」    | ・行書の特徴を理解し、鑑賞や臨書通して各古典の美を感じ、表現できるようになる。<br>①「集王聖教序」 | ・行書の特徴を理解し、筆で表現できる。                                      |    |     |    |
| 10月  |                   | ②「蘭亭序」<br>③「争座位稿」                                   | ・古典の鑑賞を通じてそれぞれが持つ美の要素、書風などの特徴が感じ取れるようになる。                | ○  | ○   | ○  |
|      |                   | ④「風信帖」                                              |                                                          | ○  | ○   | ○  |
| 11月  | 漢字の書「創作」          | ①漢字一字による創作と鑑賞<br>②漢字二字による創作                         | ・感情を書で表現するための構想を立て、墨の濃淡や潤渴、筆づかいを意図に応じて工夫できる。             |    | ○   | ○  |
|      | 仮名の書              | ・仮名の線、筆づかいの特徴を学ぶ                                    | ・漢字の線との違いを理解し、書けるようになる。                                  | ○  | ○   | ○  |
| 12月  | 単体歴史              | ・平安時代のいろは歌を学ぶ<br>・片仮名、変体仮名、平仮名の歴史                   | ・字源を知り、字形やリズムを習得する。<br>・歴史を理解し、日本文化に果たした役割を考えることができる。    | ○  | ○   | ○  |
| 1月   | 連面<br>臨書<br>ちらし書き | ・連綿の法則を知り、習得する。<br>・高野切」<br>・三色紙を鑑賞し、ちらし書きの創作       | ・平安中期の古典の美を感じ取り、筆で再現できるようになる。<br>・意図に応じ構成し工夫できる。         | ○  | ○   | ○  |
| 2月   | 漢字仮名まじりの書         | ・漢字と仮名を調和させる方法を考える。<br>「本の題字」<br>「校歌」               | ・漢字・仮名の特徴を理解した上で、調和させる方法を考え、表現できるようになる。                  | ○  | ○   | ○  |
| 3月   |                   | 「自由律俳句」                                             | ・表現の意図を持ち、筆づかいなどが工夫できるようになる。                             |    |     |    |
|      |                   | ・自撰の言葉で作品制作                                         | ・意図に応じた表現が工夫できる。                                         | ○  | ○   | ○  |

|          |                                                                                                                                                                                                                                   |       |                                            |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------------------------------------------|
| 教科・科目    | 外国語・英語コミュニケーションⅠ                                                                                                                                                                                                                  | 使用教科書 | ALL Aboard! English CommnicationⅠ          |
| 単位数      | 2                                                                                                                                                                                                                                 | 使用副教材 | ALL Aboard! English CommnicationⅠ WORKBOOK |
| 対象学年・学科  | 1年 農業科・5組                                                                                                                                                                                                                         |       |                                            |
| 科目の概要と目標 | 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、<br>1. 必要な情報を聞き取り、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。<br>2. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。<br>3. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話したり文章を書いたりして伝えることができる。 |       |                                            |

| 実施時期  | 単元                                                                           | 学習内容                                                                             | 到達度目標                                                                                                                               | 知識 | 思判表 | 主体 |
|-------|------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|----|
| 4月    | Warm-Up 1 アルファベット<br>Warm-Up 2 教室で使う表現                                       | ・食材の中にある英語の単語を書き、発音を確認する。<br>・授業における典型的な場面でよく使われる英語表現を学習する。                      | ・アルファベットについて、その決まり事を理解している。<br>・教室で使う表現について、その使い方や場面などを正しく認識し、適切に使っている。                                                             | ○  | ○   | ○  |
| 4月    | Pre-Lesson 1<br>My Name Is Ito Neko<br><br>Pre-Lesson 2<br>I Like Junk Food! | ・短い文章を読み、簡単な自己紹介をする。<br>・be動詞と一般動詞の用法を理解する。                                      | ・be動詞と一般動詞を用いた文の意味や用法を理解している。<br>・自分の名前や性格、日常の行動などを整理して、相手が理解しやすいように伝えている。                                                          | ○  | ○   | ○  |
| 中間考査  |                                                                              |                                                                                  |                                                                                                                                     |    |     |    |
| 5月    | Lesson 1<br>Breakfast around the World                                       | ・世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習する。<br>・過去形の用法を理解する。                               | ・動詞の過去形を用いた文の意味・用法を理解している。また、世界の朝食について学んだ事柄や好きな食べ物について、自分の考えや好み、その理由などを整理・理解している。                                                   | ○  | ○   | ○  |
| 6月    | Lesson 2<br>Australia' s Cute Quokkas                                        | ・オーストラリアの珍しい野生動物クオッカと観光のルールについて学習する。<br>・進行形の用法を理解する。                            | ・進行形〈be動詞＋動詞の-ing形〉を用いた文の意味・用法を理解している。また、オーストラリアに生息する珍しい野生動物について学んだ事柄や好きな動物について、自分の考えや好み、その理由などを整理・理解している。                          | ○  | ○   | ○  |
| 6月    | Communication 2<br>道案内                                                       | ・道案内の場面においてよく使われる表現を用いて、英語で道案内をしたり、道順を尋ねたりする。                                    | ・道案内をするにあたり、地図を見ながら説明する仕方を理解している。                                                                                                   | ○  | ○   | ○  |
| 期末考査  |                                                                              |                                                                                  |                                                                                                                                     |    |     |    |
| 7月    | Lesson 3<br>A Train Driver in Sanriku                                        | ・被災地を運行する列車運転士のスピーチを通して、職業の意義について考える。<br>・助動詞can, willの用法を理解する。                  | ・助動詞can, willを用いた文の意味・用法を理解している。<br>・被災地域で働く列車運転士に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えを話したり書いたりして伝え合っている。 | ○  | ○   | ○  |
| 9月    | Lesson 4<br>A Miracle Mirror<br>夢のような絶景                                      | ・海外の観光地について書かれたメールを通して、その魅力について学習する。<br>・to不定詞の用法を理解する。                          | ・to不定詞〈to＋動詞の原形〉を用いた文の意味・用法を理解している。<br>・行ってみたい場所について英語で述べることができる。                                                                   | ○  | ○   | ○  |
| 9月    | 英文Eメールの書き方                                                                   | ・英語でメールを書いてみる。                                                                   | ・英語でメールを書く際のルールを正しく理解し、適切に文章を書いている。                                                                                                 | ○  | ○   | ○  |
| 10月   | Lesson 5<br>Learning from the Sea                                            | ・高校のユニークな部活動を通して、今好きなことと将来の夢について考える。<br>・動名詞の用法を理解する。                            | ・動名詞〈動詞の-ing形〉を用いた文の意味・用法を理解している。高校のユニークな部活動に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、将来の夢や先週末に楽しんだことについて、話したり書いたりして伝え合おうとしている。            | ○  | ○   | ○  |
| 中間考査  |                                                                              |                                                                                  |                                                                                                                                     |    |     |    |
| 10月   | Reading 1<br>Short Stories in English                                        | ・3つのショートストーリーを読み、それぞれの場面や心情を読み取ってユーモアを理解する。                                      | ・英語で書かれたShort Storiesの内容に関する問いに答えている。また英語で書かれたShort Storiesを、聞いている相手に伝わりやすいように読む要点を捉えている。                                           | ○  | ○   | ○  |
| 11月   | Lesson 6<br>A Funny Picture from the Edo Period                              | ・江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。<br>・受け身の用法を理解する。               | ・受け身〈be動詞＋過去分詞〉を用いた文の意味・用法を理解している。<br>・好きな絵の紹介とその理由について、受け身〈be動詞＋過去分詞〉を用いて、情報や考え、気持ちを話して伝え合っている。                                    | ○  | ○   | ○  |
| 期末考査  |                                                                              |                                                                                  |                                                                                                                                     |    |     |    |
| 12月   | Lesson 7<br>A Diary of Hope<br>アンネ・フランク                                      | ・アンネ・フランクの生活と日記について紹介する授業を通して、生きることの意味について考える。<br>・比較表現の用法を理解する。                 | ・比較表現〈-er〉〈the -est〉〈as＋原級＋as〉を用いた文の意味・用法を理解している。また、アンネ・フランクについて学んだり、関心のある人物について調べた事柄を整理・理解している。                                    | ○  | ○   | ○  |
| 1月    | Lesson 8<br>A Door to a New Life                                             | ・ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、ロボットの可能性について考える。<br>・現在完了形の用法を理解する。                        | ・現在完了形〈have[has]＋過去分詞〉を用いた文の意味・用法を理解している。また、ロボットカフェについて学んだり、ロボットについて自分で調べた事柄を整理・理解している。                                             | ○  | ○   | ○  |
| 1月    | Communication 3<br>乗り換え案内                                                    | ・電車の乗り換え案内の場面においてよく使われる表現を用いて、英語で尋ねたり案内したりする。                                    | ・電車の乗り換え案内をするにあたり、路線図を見ながら説明する仕方を理解している。                                                                                            | ○  | ○   | ○  |
| 2月    | Lesson 9<br>Fighting Plastic Pollution                                       | ・プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動を学習する。<br>・名詞を後ろから説明する分詞の用法を理解する。                 | ・「名詞を後ろから説明する分詞」が用いられた文の形・意味・用法を理解している。また、プラスチックごみによる環境汚染の問題について学んだり、プラスチックごみの問題について調べた事柄を整理・理解している。                                | ○  | ○   | ○  |
| 2月    | Lesson 10<br>Pigs from across the Sea                                        | ・第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や、両地域の現在の交流について学習する。<br>・関係代名詞の用法を理解する。 | ・関係代名詞who, whichを用いた文の形・意味・用法を理解している。また、第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイからの援助や、両地域の現在の交流について学んだり、海外の文化や社会を理解する手段について、自分で調べた事柄を整理・理解している。       | ○  | ○   | ○  |
| 学年末考査 |                                                                              |                                                                                  |                                                                                                                                     |    |     |    |
| 3月    | Reading 2<br>The Wizard of Oz                                                | ・家ごと大竜巻に飛ばされて不思議なオズの国に降り立ったドロシーと愛犬のトトが、自分の家にたどりつくまでの冒険物語を読み、場面や登場人物の心情を読み取る。     | ・英語で書かれたThe Wizard of Ozを、主人公のドロシーを中心に、登場人物の気持ちを考えながら音読している。また、聞いている相手に意味が伝わりやすい読み方の要点を捉えている。                                       | ○  | ○   | ○  |

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |                            |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|----------------------------|
| 教科・科目    | 家庭・<br>家庭総合                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 使用教科書 | 家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍 家総701）  |
| 単位数      | 2                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 使用副教材 | とやまの高校生ライフプランガイド（富山県教育委員会） |
| 対象学年・学科  | 2年 農業科                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |       |                            |
| 科目の概要と目標 | 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。<br>(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。<br>(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 |       |                            |

| 実施時期  | 単元                                                     | 学習内容                                                                                                                          | 到達度目標                                                                                                                                                                              | 知識 | 思考 | 主体 |
|-------|--------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----|----|
| 4月    | 第1章<br>生涯を見通す<br>1人生を展望する<br>2目標を持って生きる                | ・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。<br>・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。                                           | ・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                                      | ○  | ○  | ○  |
| 5月    | 第6章<br>食生活をつくる<br>1食生活の課題について考える                       | ・よりよい食習慣を身に付け、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。                                                                 | ・食品の調理上の性質について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                                                                         | ○  | ○  | ○  |
| 中間考査  |                                                        |                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                    | ○  | ○  | ○  |
| 5月    | 2 食事と栄養・食品<br>3 食生活の選択と安全<br>4 生涯の健康を見通した食事計画          | ・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。                                                       | ・食の安全について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                                                                              | ○  | ○  | ○  |
| 6月    | 5 調理の基礎                                                | ・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさや変化することを科学的に捉える。                                                                     | ・食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                                                              | ○  |    | ○  |
| 7月    | 6食生活の文化と知恵                                             | ・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。                                                                                   |                                                                                                                                                                                    |    |    |    |
| 期末考査  |                                                        |                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                    | ○  | ○  | ○  |
| 7月    | 7これからの食生活                                              | ・自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。                                                  | ・健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                                                                     |    | ○  | ○  |
| 9月    | 第3章<br>子どもと共に育つ<br>1命を育む<br>2子どもの育つ力を知る                | ・社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。<br>・子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。                     | ・子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                                                          | ○  |    | ○  |
| 10月   | 3子どもと関わる<br>4子どもとの触れ合いから学ぶ<br>5これからの保育環境               | ・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。<br>・子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。                         | ・子供の健やかな発達のために地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                                                                | ○  | ○  | ○  |
| 中間考査  |                                                        |                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                    | ○  | ○  | ○  |
| 10月   | 第5章<br>共に生き、共に支える<br>1私たちの生活と福祉<br>2社会保障の考え方<br>3共に生きる | ・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。<br>・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。 | ・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合う生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                                                      | ○  | ○  | ○  |
| 11月   | 第8章<br>住生活をつくる<br>1住生活の変遷と住居の機能<br>2安全で快適な住生活の計画       | ・将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支える生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。<br>・防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。  | ・住居の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。<br>・住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | ○  |    | ○  |
| 期末考査  |                                                        |                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                    | ○  | ○  | ○  |
| 12月   | 3住生活の文化と知恵                                             | ・日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。                                                            | ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                                                         | ○  |    | ○  |
| 1月    | 4これからの住生活                                              | ・持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。                                                      |                                                                                                                                                                                    |    | ○  | ○  |
| 2月    | 第7章<br>衣生活をつくる<br>1被服の役割を考える<br>2被服を入手する<br>3被服を管理する   | ・私たちが被服を着用するに至った社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。<br>・健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。                                      | ・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                                                                        | ○  |    | ○  |
| 学年末考査 |                                                        |                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                    | ○  | ○  | ○  |
| 3月    | 4衣生活の文化と知恵<br>5これからの衣生活                                | ・日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。                                                             | ・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                                                                        | ○  | ○  | ○  |

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |                            |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|----------------------------|
| 単位数      | 2                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 使用副教材 | とやまの高校生ライフプランガイド（富山県教育委員会） |
| 対象学年・学科  | 3年 農業科                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |       |                            |
| 科目の概要と目標 | 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。<br>(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。<br>(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 |       |                            |

| 実施時期  | 単元                                                                | 学習内容                                                                                                                                                                                        | 到達度目標                                                                                                                                  | 知識 | 思判表 | 主体 |
|-------|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|----|
| 4月    | 第4章<br>超高齢社会を共に生きる<br>1超高齢・大衆長寿社会の到来<br>2高齢者の心身の特徴<br>3これからの超高齢社会 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か考える。</li> <li>・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。</li> <li>・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。</li> </ul> | ・高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                             | ○  | ○   | ○  |
| 5月    | 第2章<br>人生をつくる<br>1人生をつくる                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。</li> </ul>                                                                                         | ・男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                              | ○  | ○   | ○  |
| 中間考査  |                                                                   |                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                        | ○  | ○   | ○  |
| 5月    | 2家族・家庭を見つめる<br>3これからの家庭生活と社会                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。</li> <li>・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。</li> </ul>                                | ・家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することについて課題を設定し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                   | ○  | ○   | ○  |
| 6月    | 第5章<br>共に生き、共に支える<br>1私たちの生活と福祉<br>2社会保障の考え方<br>3共に生きる            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。</li> <li>・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。</li> </ul>       | ・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                         | ○  |     | ○  |
| 7月    | 第7章<br>衣生活をつくる<br>1被服の役割を考える                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。</li> </ul>                                                                                           | ・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                            | ○  |     | ○  |
| 期末考査  |                                                                   |                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                        | ○  | ○   | ○  |
| 7月    | 2被服を入手する<br>3被服を管理する                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。</li> </ul>                                                                                                    | ・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                            | ○  |     | ○  |
| 9月    | 4衣生活の文化と知恵                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。</li> </ul>                                                                         | ・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                            | ○  |     | ○  |
| 10月   | 5これからの衣生活                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの被服について理解を深める。</li> </ul>                                                                                          | ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について課題を設定し、解決策を構想し根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                             |    | ○   | ○  |
| 中間考査  |                                                                   |                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                        | ○  | ○   | ○  |
| 10月   | 第6章<br>食生活をつくる<br>1食生活の課題について考える<br>2食事と栄養・食品                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。</li> </ul>                                                                           | ・食品の調理上の性質について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                             | ○  |     | ○  |
| 11月   | 3食生活の選択と安全<br>4生涯の健康を見通した食事計画                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。</li> </ul>                                                                   | ・食の安全について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                                  | ○  | ○   | ○  |
| 期末考査  |                                                                   |                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                        | ○  | ○   | ○  |
| 12月   | 5調理の基礎<br>6食生活の文化と知恵<br>7これからの食生活                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。</li> <li>・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する</li> </ul>                             | ・食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。                                  | ○  |     | ○  |
| 1月    | 第9章<br>経済生活を営む<br>1情報の収集・比較と意思決定<br>2購入・支払いのルールと方法<br>3消費者の権利と責任  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。</li> <li>・販売方法や支払い方法が多様化する中で、契約の重要性について理解する。</li> <li>・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。</li> </ul>           | ・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動できるよう、責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。        | ○  |     | ○  |
| 2月    | 4生涯の経済生活を見通す<br>5家計をマネジメントする<br>6これからの経済生活                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。</li> <li>・生涯を見通して家計をマネジメントする力をつけるため、家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解する。</li> </ul>                   | ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージごとの課題や社会保障制度などと関連付けて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | ○  | ○   | ○  |
| 学年末考査 |                                                                   |                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                        | ○  | ○   | ○  |

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |       |                    |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------------------|
| 教科・科目    | 農業・農業と情報                                                                                                                                                                                                                                                                         | 使用教科書 | 農業702 「農業と情報」 実教出版 |
| 単位数      | 2                                                                                                                                                                                                                                                                                | 使用副教材 |                    |
| 対象学年・学科  | 1年 農業科・5組                                                                                                                                                                                                                                                                        |       |                    |
| 科目の概要と目標 | 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。<br>(1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。<br>(2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。<br>(3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |       |                    |

| 実施時期      | 単元                                                                                                                                                                               | 学習内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 到達目標                                                                                                                                                                                                                                  | 知識 | 思考 | 主体 |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----|----|
| 4月        | 第1章 私たちの生活と農業の情報化<br>1 情報社会における私たちの生活<br>2 情報とメディア<br>3 情報社会とモラル<br>4 農業を支える情報<br>第2章 社会を支えるコンピュータ<br>1 コンピュータのしくみ<br>2 データや情報の表現<br>3 情報通信ネットワーク<br>4 インターネットのしくみ<br>5 情報セキュリティ | ○作物が自分たちの食生活と密接に関わっていることを理解させる。<br>○作物のおい立ちと品種改良の重要性を理解させる。<br>○作物の食品の価値と我が国の利用方法について理解させる。<br>○安全な作物生産のため、トレーサビリティや農業生産工程管理、ポジティブリスト制度などさまざまな取り組みがなされていることを理解させる。<br>○世界と我が国の作物生産の現状、輸出入と食料需給の動向について理解させる。<br>○「農業と環境」で習得したプロジェクト学習の意義や進め方について理解させる。<br>○作物を学ぶ目的を理解させる。<br>○これまでの体験などを全体で共有し、実践例をもとに、品質向上から経営発展、ひいては社会貢献へと主体的にとり組むようにする。 | ○作物は一般に年間1回の栽培となるので、過期を逃さずに栽培できるよう授業の組み立てを工夫する。<br>●第3章以下で扱う各作物の栽培管理を始め、栽培や観察、実験などを展開する。<br>●イネの種まき・育苗<br>○プロジェクト学習の意義や進め方について振り返る。<br>○作物を学ぶ目的を理解する。<br>○これまでの体験や実践事例をもとに、農業科に属する他の科目と関連付けながら科学的かつ創造的に問題解決にとり組む。                     | ○  | ○  | ○  |
| 中間調査      |                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                       |    |    |    |
| 5、6月      | 第1、2章継続                                                                                                                                                                          | ○作物が自分たちの食生活と密接に関わっていることを理解させる。<br>○作物のおい立ちと品種改良の重要性を理解させる。<br>○作物の食品の価値と我が国の利用方法について理解させる。<br>○安全な作物生産のため、トレーサビリティや農業生産工程管理、ポジティブリスト制度などさまざまな取り組みがなされていることを理解させる。<br>○世界と我が国の作物生産の現状、輸出入と食料需給の動向について理解させる。<br>○「農業と環境」で習得したプロジェクト学習の意義や進め方について理解させる。<br>○作物を学ぶ目的を理解させる。<br>○これまでの体験などを全体で共有し、実践例をもとに、品質向上から経営発展、ひいては社会貢献へと主体的にとり組むようにする。 | ○作物は一般に年間1回の栽培となるので、過期を逃さずに栽培できるよう授業の組み立てを工夫する。<br>●第3章以下で扱う各作物の栽培管理を始め、栽培や観察、実験などを展開する。<br>●イネの種まき・育苗<br>○プロジェクト学習の意義や進め方について振り返る。<br>○作物を学ぶ目的を理解する。<br>○これまでの体験や実践事例をもとに、農業科に属する他の科目と関連付けながら科学的かつ創造的に問題解決にとり組む。                     | ○  | ○  | ○  |
| 期末調査      |                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                       |    |    |    |
| 7月、9月、10月 | 第3章 コミュニケーションと情報デザイン<br>1 情報表現のためのソフトウェア<br>2 文書の作成と表現<br>3 データの集計と視覚化<br>4 データベースシステムとオープンデータ<br>5 画像・図形処理ソフトウェアの利用<br>6 プレゼンテーション<br>7 情報発信<br>8 問題解決の方法                       | ・さまざまなアプリケーションソフトウェアの演習を通して、実際の情報処理の過程を理解するとともに、自分で活用できるように基本的な技術を身に付ける。また、問題解決の過程やアイデアや気づきを引き出す思考技術を理解する。                                                                                                                                                                                                                                | ・情報を活用するソフトウェアについて理解する。<br>・文章作成ソフトウェアを利用して文書を作成できる。<br>・表計算ソフトウェアを利用してデータの処理とグラフ作成等の視覚化ができる。<br>・画像図形処理・動画編集等のソフトウェアを利用して基本的な画像処理・動画編集を行うことができる。<br>・基本的なHTMLのタグを理解し、簡単なWebページを作成することができる。<br>・問題解決と情報利用の方法、アイデアなどを引き出す思考技術について理解する。 | ○  | ○  | ○  |
| 中間調査      |                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                       |    |    |    |
| 11月、12月   | 第3章継続                                                                                                                                                                            | ・さまざまなアプリケーションソフトウェアの演習を通して、実際の情報処理の過程を理解するとともに、自分で活用できるように基本的な技術を身に付ける。また、問題解決の過程やアイデアや気づきを引き出す思考技術を理解する。                                                                                                                                                                                                                                | ・情報を活用するソフトウェアについて理解する。<br>・文章作成ソフトウェアを利用して文書を作成できる。<br>・表計算ソフトウェアを利用してデータの処理とグラフ作成等の視覚化ができる。<br>・画像図形処理・動画編集等のソフトウェアを利用して基本的な画像処理・動画編集を行うことができる。<br>・基本的なHTMLのタグを理解し、簡単なWebページを作成することができる。                                           | ○  | ○  | ○  |
| 期末調査      |                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                       |    |    |    |
| 1月、2月     | 第3章継続                                                                                                                                                                            | ・さまざまなアプリケーションソフトウェアの演習を通して、実際の情報処理の過程を理解するとともに、自分で活用できるように基本的な技術を身に付ける。また、問題解決の過程やアイデアや気づきを引き出す思考技術を理解する。                                                                                                                                                                                                                                | ・情報を活用するソフトウェアについて理解する。<br>・文章作成ソフトウェアを利用して文書を作成できる。<br>・表計算ソフトウェアを利用してデータの処理とグラフ作成等の視覚化ができる。<br>・画像図形処理・動画編集等のソフトウェアを利用して基本的な画像処理・動画編集を行うことができる。<br>・基本的なHTMLのタグを理解し、簡単なWebページを作成することができる。<br>・問題解決と情報利用の方法、アイデアなどを引き出す思考技術について理解する。 | ○  | ○  | ○  |
| 学年末調査     |                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                       |    |    |    |
| 3月        | 第3章継続                                                                                                                                                                            | ・さまざまなアプリケーションソフトウェアの演習を通して、実際の情報処理の過程を理解するとともに、自分で活用できるように基本的な技術を身に付ける。また、問題解決の過程やアイデアや気づきを引き出す思考技術を理解する。                                                                                                                                                                                                                                | ・情報を活用するソフトウェアについて理解する。<br>・文章作成ソフトウェアを利用して文書を作成できる。<br>・表計算ソフトウェアを利用してデータの処理とグラフ作成等の視覚化ができる。<br>・画像図形処理・動画編集等のソフトウェアを利用して基本的な画像処理・動画編集を行うことができる。<br>・基本的なHTMLのタグを理解し、簡単なWebページを作成することができる。<br>・問題解決と情報利用の方法、アイデアなどを引き出す思考技術について理解する。 | ○  | ○  | ○  |

年間指導・評価計画

富山県立入善高等学校

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |       |                    |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------------------|
| 教科・科目    | 農業・農業と情報                                                                                                                                                                                                                                                                         | 使用教科書 | 農業702 「農業と情報」 実教出版 |
| 単位数      | 2                                                                                                                                                                                                                                                                                | 使用副教材 |                    |
| 対象学年・学科  | 3年 農業科 選択者                                                                                                                                                                                                                                                                       |       |                    |
| 科目の概要と目標 | 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。<br>(1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。<br>(2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。<br>(3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |       |                    |

| 実施時期  | 単元                                                                                                                                                         | 学習内容                                                                                                       | 到達度目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 知識                                  | 思弁表                         | 主体                          |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 4～5   | 第3章 コミュニケーションと情報デザイン<br>1 情報表現のためのソフトウェア<br>2 文書の作成と表現<br>3 データの集計と視覚化<br>4 データベースシステムとオープンデータ<br>5 画像・図形処理ソフトウェアの利用<br>6 プレゼンテーション<br>7 情報発信<br>8 問題解決の方法 | ・さまざまなアプリケーションソフトウェアの演習を通して、実際の情報処理の過程を理解するとともに、自分で活用できるように基本的な技術を身に付ける。また、問題解決の過程やアイデアや気づきを引き出す思考技術を理解する。 | ・情報を活用するソフトウェアについて理解する。<br>・文章作成ソフトウェアを利用して文書を作成できる。<br>・表計算ソフトウェアを利用してデータの処理とグラフ作成等の視覚化ができる。<br>・データベースソフトウェアの特徴と機能を理解し、データを活用することができる。<br>・画像図形処理・動画編集等のソフトウェアを利用して基本的な画像処理・動画編集を行うことができる。<br>・プレゼンテーションソフトウェアを利用して基本的なプレゼンテーションを行うことができる。<br>・基本的なHTMLのタグを理解し、簡単なWebページを作成することができる。<br>・問題解決と情報利用の方法、アイデアなどを引き出す思考技術について理解する。 | ○<br>○<br>○<br><br>○<br>○<br>○<br>○ |                             | ○                           |
| 中間調査  |                                                                                                                                                            |                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                     |                             |                             |
| 6～7   | 第3章 継続                                                                                                                                                     | プレゼンテーション作成検定の学習                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                     |                             |                             |
| 期末調査  |                                                                                                                                                            |                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                     |                             |                             |
| 9～10  | 第3章 継続                                                                                                                                                     | ホームページ作成検定の学習                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                     |                             |                             |
| 中間調査  |                                                                                                                                                            |                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                     |                             |                             |
| 10～11 | 第6章 農業学習と情報活用<br>1 農業学習とプロジェクト学習<br>2 プロジェクト発表と情報発信<br>3 データの視覚化と分析                                                                                        | ・栽培や飼育のプロジェクト学習に取り組み、その過程で得られたデータを正しく処理し、文章化したり、グラフ化してわかりやすくまとめて発表するとともに、その成果を情報発信するための一連の技術を身に付ける。        | ・農業学習の特徴とプロジェクトの四段階について理解する。<br>・プロジェクトをまとめ、情報通信ネットワークを活用して情報発信する。<br>・データの特徴を理解し、収集したデータを統計処理することができる。                                                                                                                                                                                                                          | ○<br><br><br><br>○<br><br>○         | ○<br><br><br><br>○<br><br>○ | ○<br><br><br><br>○<br><br>○ |
| 期末調査  |                                                                                                                                                            |                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                     |                             |                             |
| 12～1  | 第6章 継続                                                                                                                                                     |                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                     |                             |                             |

|          |                                                                                   |       |    |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------|-------|----|
| 教科・科目    | 農業・課題研究                                                                           | 使用教科書 | なし |
| 単位数      | 2                                                                                 | 使用副教材 | なし |
| 対象学年・学科  | 2年 農業科・5組                                                                         |       |    |
| 科目の概要と目標 | 農業に関する課題を自ら設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。 |       |    |

| 実施時期      | 単元                | 学習内容                                                                                             | 到達目標                                                                                                                                                                                                  | 知識 | 思考 | 主体 |
|-----------|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----|----|
| 4月        | 第1章 課題の設定と計画      | <ul style="list-style-type: none"> <li>全体ガイダンス</li> <li>研究課題の設定</li> <li>研究方法と年間計画の立案</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究の学習法について理解する。</li> <li>これまでの農業学習や過去の先輩の記録、地域農業の課題を調査するなどして、自らが興味関心のある研究テーマを決定することができるようになる。</li> <li>自分の研究テーマについて、具体的な内容や方法、期間、場所などを考え、計画を立案する。</li> </ul> | ○  |    |    |
| 中間考査      |                   |                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                       |    |    |    |
| 5月、6月     | 第2章 研究の実施         | <ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究の実施</li> </ul>                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>計画に基づいて研究や実験に取り組むことができるようになる。</li> <li>研究で調査したことなどを記録して保管することができるようになる。</li> </ul>                                                                             |    | ○  |    |
| 期末考査      |                   |                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                       |    |    |    |
| 7月、9月、10月 | 第2章 研究の実施         | <ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究の実施</li> </ul>                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>計画に基づいて研究や実験に取り組むことができるようになる。</li> <li>研究で調査したことなどを記録して保管することができるようになる。</li> </ul>                                                                             |    |    | ○  |
| 中間考査      |                   |                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                       |    |    |    |
| 11月、12月   | 第3章 課題研究のまとめと自己評価 | <ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究のまとめ</li> <li>課題研究中間報告書の作成</li> <li>自己評価</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>取り組んできた活動記録を基に研究結果をまとめる能力を身につける。</li> <li>表計算ソフトを用いて数値等を処理し、ワープロソフトを用いて中間報告書を作成し、提出することができるようになる。</li> <li>取り組みの内容と結果から、研究についての自己評価を行う能力と態度を身につける。</li> </ul>  | ○  |    |    |
| 期末考査      |                   |                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                       |    |    |    |
| 1月、2月     | 第4章 学習成果の発表       | <ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究要録集の作成</li> </ul>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>中間報告書を基に、1年間を通して取り組んできた研究結果を表計算ソフトやワープロソフトを用いてまとめ、研究報告書を作成する。プレゼンテーションソフトを用いて研究報告をすることができるようになる。</li> </ul>                                                    |    | ○  |    |
| 学年末考査     |                   |                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                       |    |    |    |
| 3月        | 第5章 計画の評価と次年度の計画  | <ul style="list-style-type: none"> <li>次年度の計画</li> </ul>                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年間の取り組みにより結果を考察した評価や反省をもとに、3年次で取り組む課題研究計画書を作成する</li> </ul>                                                                                                    |    |    | ○  |